

J.A.C.O.

日本視能訓練士協会

視能訓練士実態調査報告書

2015年

公益社団法人 日本視能訓練士協会

視能訓練士実態調査報告書

— 2015 年 —

はじめに

公益社団法人日本視能訓練士協会では、視能訓練士の実態把握および会員の意見を集約することを目的として、1995 年より 5 年ごとにアンケート調査を実施し、実態調査報告書を作成している。今回「2015 年報告書」の作成にあたり、2015 年 6 月にアンケートを実施した。本書では、2015 年の調査結果と、過去の調査との比較検討を適宜行い、視能訓練士の現状を報告する。

□対象と方法

対象は 2015 年 6 月現在の公益社団法人日本視能訓練士協会の正会員 5,886 名であった。
方法は郵送によるアンケート調査とし、調査期間は 2015 年 6 月 1 日から 6 月 30 日までの 1 か月間とした。

□回収数と回収率

発送数 5,886 通、回収数 2,267 通で、回収率は 38.5%であった。

□集計方法

集計は単純集計およびクロス集計とし、複数回答はのべ回答数で集計した。

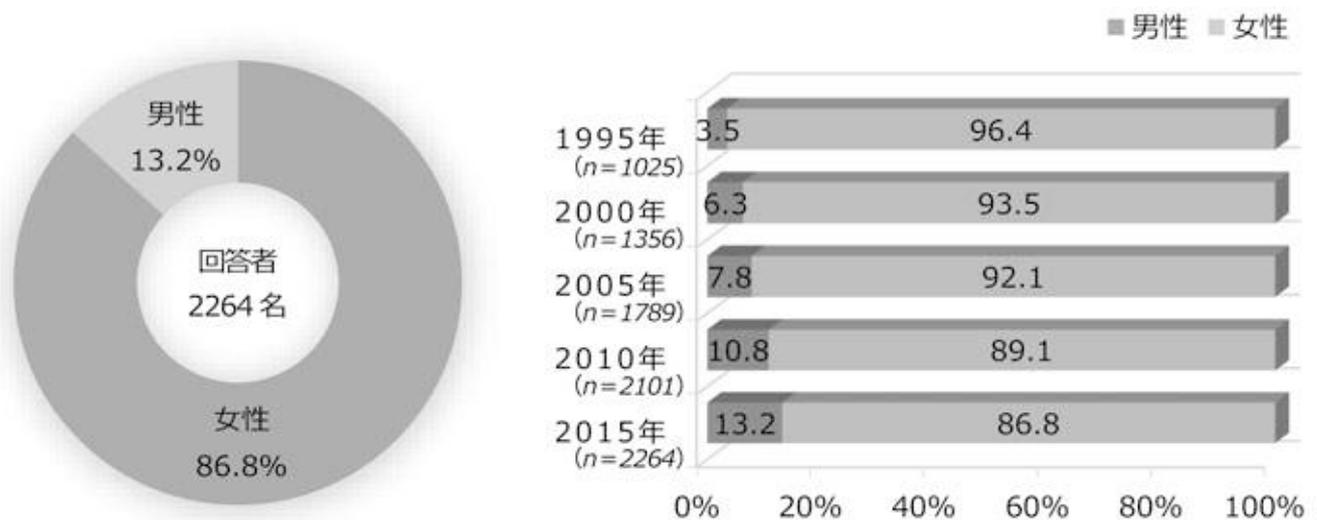
目次

I 一般事項	1
1) 男女比	1
2) 年齢構成	1
3) 勤務年数と勤務している地域	2
4) 視能訓練士以外の所持資格	3
II 勤務体制	4
1) 勤務形態	4
2) 非正規職員の勤務形態	5
3) 施設の運営主体	6
4) 採用形態	7
5) 施設内の視能訓練士数	8
6) 視能訓練士の増員による収益及びサービスの向上の可否に関する意見	9
7) 視能訓練士の増員や常勤化についての相談	10
8) 年間所得	11
9) 勤務日数	12
10) 勤務先の変更	13
III 勤務状況	15
1) 業務内容	15
2) 業務概要	16
3) 医療事故	17
4) 他の医療関連職種とのトラブル	18
5) ハラスメント	19
IV 視能訓練士の養成	20
1) 教育機関と修業年数	20
2) 教育内容の評価	21
3) 最も充実を必要とする科目	21
4) 視能訓練士教育への関わり	22
V 卒後教育	24
1) 業務上の問題点や疑問点の解決方法	24
2) 職場内の勉強会	25
3) 職場外の勉強会	26
VI 将来展望	27
1) 職場状況の評価	27
2) 現状に対する満足度	29
3) 現在の職場の継続及び視能訓練士としての継続	30
4) 視能訓練士の将来性	31
まとめにかえて	32
会員のみなさまの声	33
資料1 アンケート調査票	34
資料2 回答の単純集計	39

I 一般事項

1) 男女比

今回の調査では、男性298名(13.2%)、女性1966名(86.8%)であった(図I-1)。男性の割合は、1995年から5年ごとに2~3%程度の増加を示している(図I-2)。



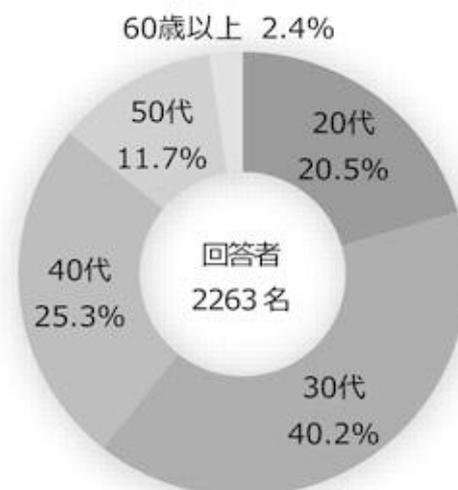
図I-1 回答者の男女比

図I-2 男女比の経年変化

2) 年齢構成

年齢構成比は、30代が40.2%と最も高く、次いで40代 25.3%、20代 20.5%であった。

前回2010年の調査では、30代 34.6%、40代 17.0%、20代 32.0%であり、30代が占める割合が最も高いのは同様の傾向であるが、20代が10%程度の減少を示した(図I-3)。



図I-3 年齢構成比

3) 勤務年数と勤務している地域

通算の勤務年数は、「10年未満」が24.6%と最も多く、次いで「15年未満」20.6%、「5年未満」16.5%、「20年未満」15.5%であった(図I-4)。

勤務している地域について、本協会では区分している8つのブロック別にみると、「関東・甲信越」33.5%、「近畿」18.5%、「東海・北陸」12.0%、「九州・沖縄」9.7%、「中国・四国」8.3%、「東北」7.0%、「東京」5.7%、「北海道」3.9%であった(図I-5)。前回の調査に引き続き「東京」に勤務している回答者の数は減少傾向にあり、「関東・甲信越」、「中国・四国」、「九州・沖縄」に勤務している回答者の数が増加傾向にある。ただし、調査年別の推移については回答者の傾向を示しているに過ぎず、必ずしも実状を反映した結果ではない可能性がある。



図 I-4 通算の勤務年数

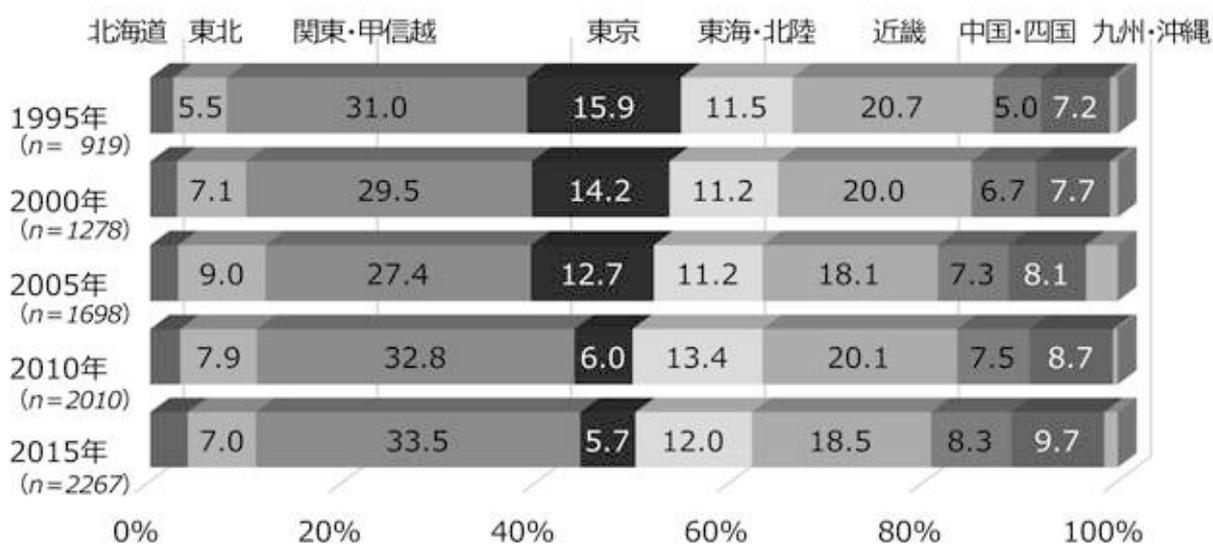
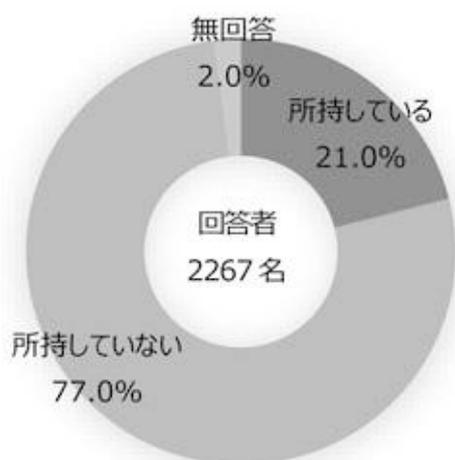


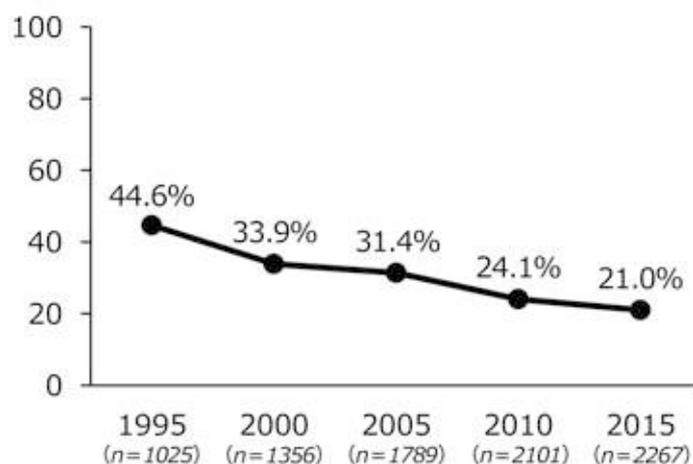
図 I-5 勤務している地域 (調査年別の推移)

4) 視能訓練士以外の所持資格

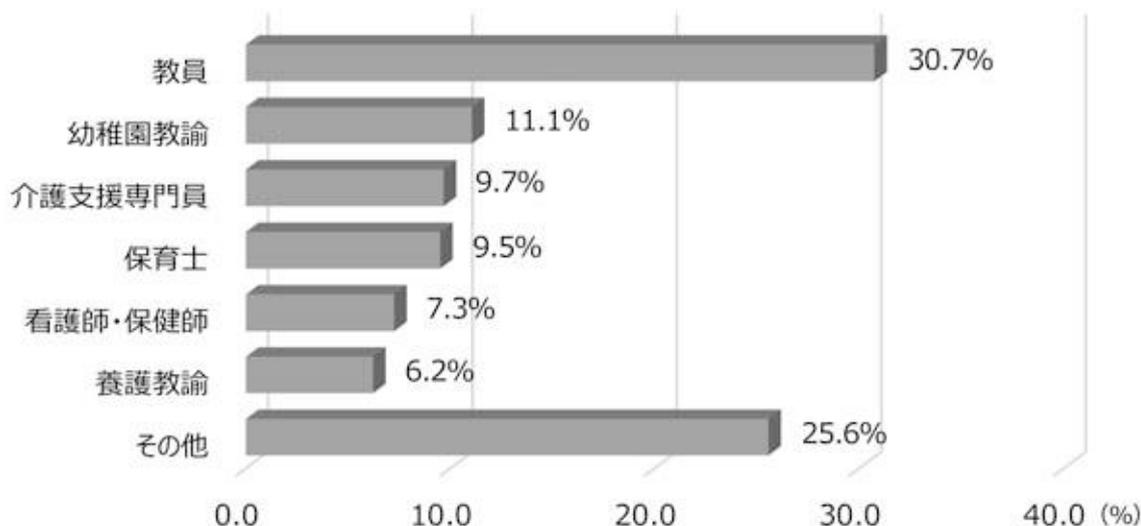
視能訓練士以外の資格を所持している者は21.0%、所持していない者は77.0%であった(図I-6)。1995年の調査以降、視能訓練士以外の資格を所持している者は5年ごとに減少傾向にあったが、今回の調査では前回とほぼ同様であった(図I-7)。所持資格の内訳は、「教員」が30.7%で最も多く、次いで「幼稚園教諭」11.1%、「介護支援専門員(ケアマネージャー)」9.7%、「保育士」9.5%であった(図I-8)。その他の回答に、社会福祉士、介護福祉士、臨床検査技師などの国家資格や、医療事務等、視覚障害自立(生活)訓練指導員などの各種団体の認定資格などがあった。



図I-6 視能訓練士以外の資格所持



図I-7 資格所持の推移



※「視能訓練士以外の資格を所持している」と回答した476名の全579回答での比率を示す。

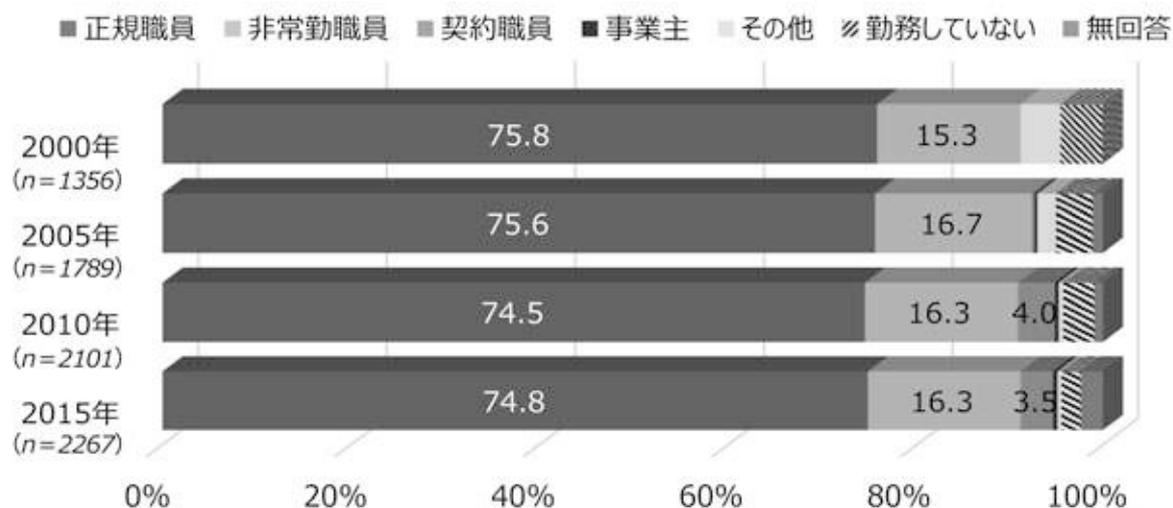
図I-8 所持資格の内訳(複数回答)

Ⅱ 勤務体制

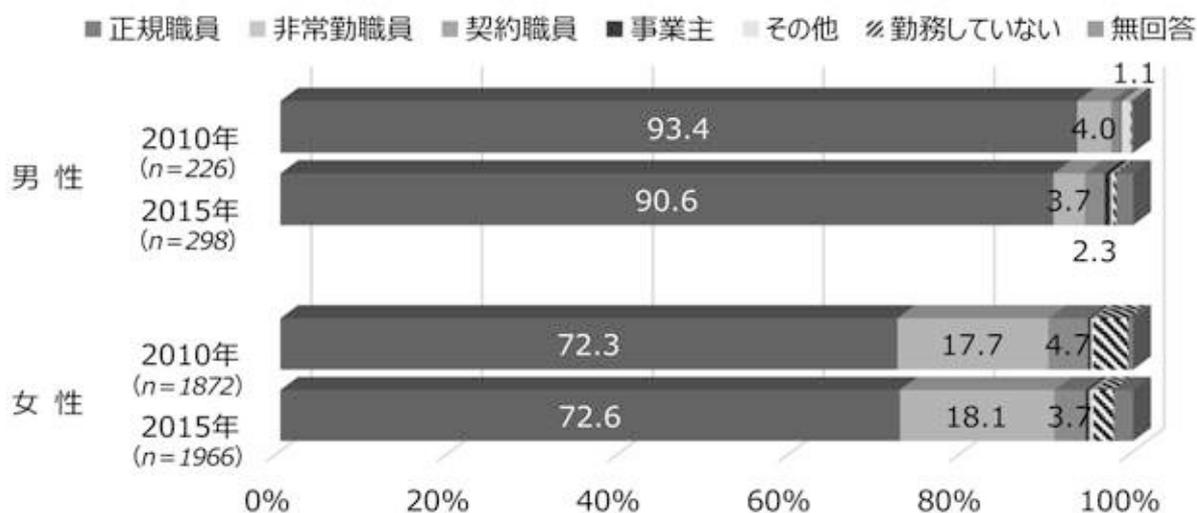
1) 勤務形態

今回の調査では、「正規職員」は74.8%、「非常勤職員」は16.3%、「契約職員」は3.5%であった。2000年、2005年、2010年の過去3回の調査と比較しても、「正規職員」は75～76%、「非常勤職員」は15～17%と、勤務形態に大きな変化はみられなかった。2010年に調査項目として追加した「契約職員」も2010年は4.0%、2015年は3.5%と変化はみられなかった（図Ⅱ-1）。

男女別での勤務形態の比較において、2015年では「正規職員」は男性90.6%、女性72.6%、「非常勤職員」は男性3.7%、女性18.1%、「契約職員」は男性2.3%、女性3.7%であった。2010年と比較した勤務形態の比率は、女性では大きな変化がみられなかったが、男性では「正規職員」の割合が3%程度減少していた（図Ⅱ-2）。



図Ⅱ-1 勤務形態

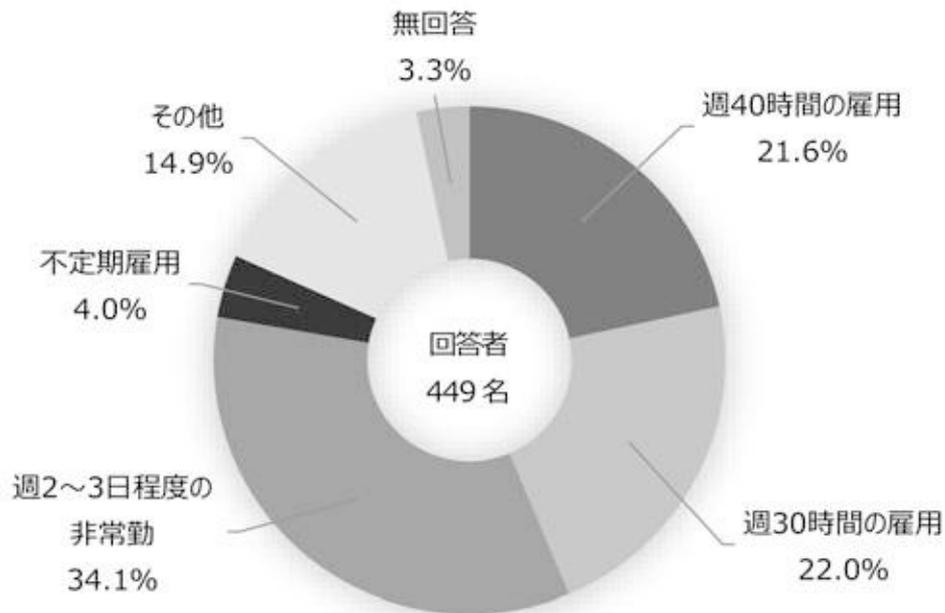


図Ⅱ-2 男女別勤務形態（調査年別の推移）

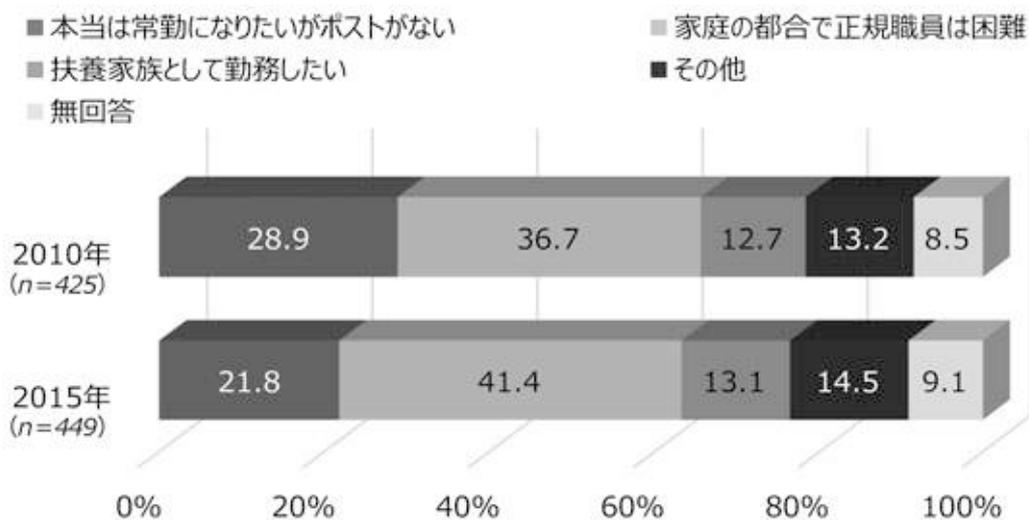
2) 非正規職員の勤務形態

「非常勤職員」および「契約職員」を合わせた非正規職員の勤務形態は、「週2～3日程度の非常勤」が34.1%と最も多く、次いで「週30時間の雇用」22.0%、「週40時間の雇用」21.6%であり、全体の78%を占めた（図II-3）。2010年の調査では、「週2～3日程度の非常勤」33.2%、「週40時間の雇用」26.8%、「週30時間の雇用」16.0%、順位に変動はあったものの、全体に占める割合は76%であり同様の傾向であった（図II-3）。

非正規職員となる理由は、「家庭の都合で正規職員は困難」が41.4%と最も多く、「本当は常勤になりたいがポストがない」21.8%、「扶養家族として勤務したい」13.1%であり、2010年と同様の傾向であった（図II-4）。



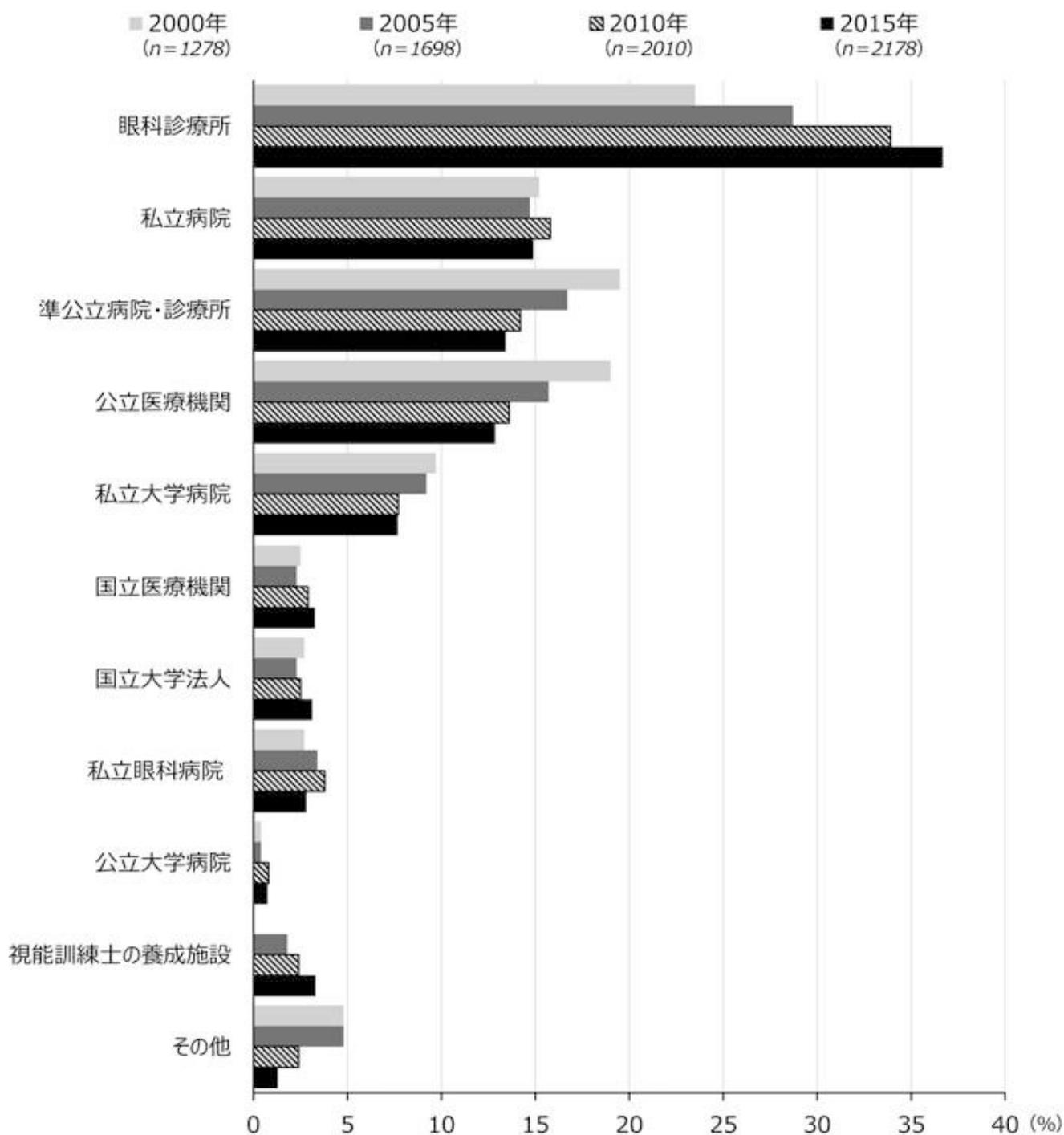
図II-3 非正規職員の勤務形態



図II-4 非正規職員の理由（調査年別の推移）

3) 施設の運営主体

施設の運営主体は、2000年、2005年、2010年では「眼科診療所（医療法人及び個人）」の割合が最も多かったが、2015年でも36.7%と最も多い結果であり、「眼科診療所（医療法人及び個人）」に勤務する割合は増加傾向を示している。これに対し、「公立医療機関」、「準公立病院・診療所」に勤務する割合は減少傾向にあり、「国立医療機関」、「国立大学法人」、「視能訓練士の養成施設」はわずかながら増加の傾向にあった（図II-5）。

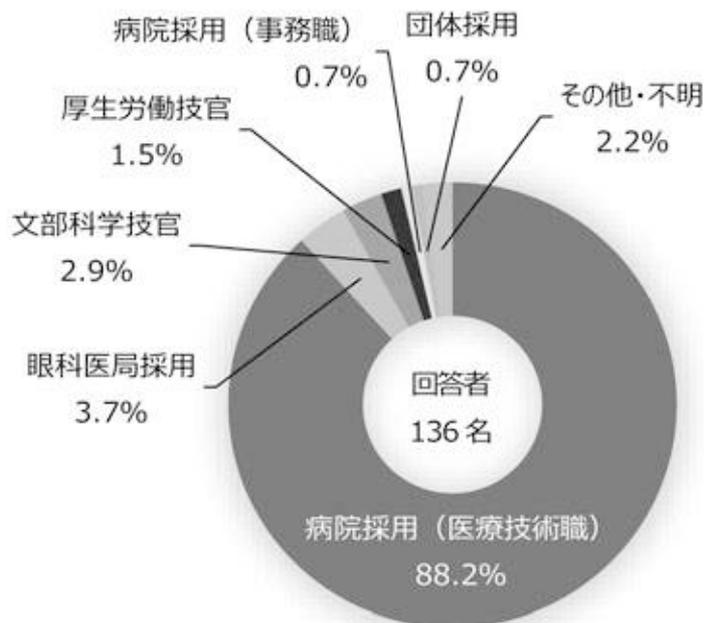


図II-5 施設の運営主体（調査年別の推移）

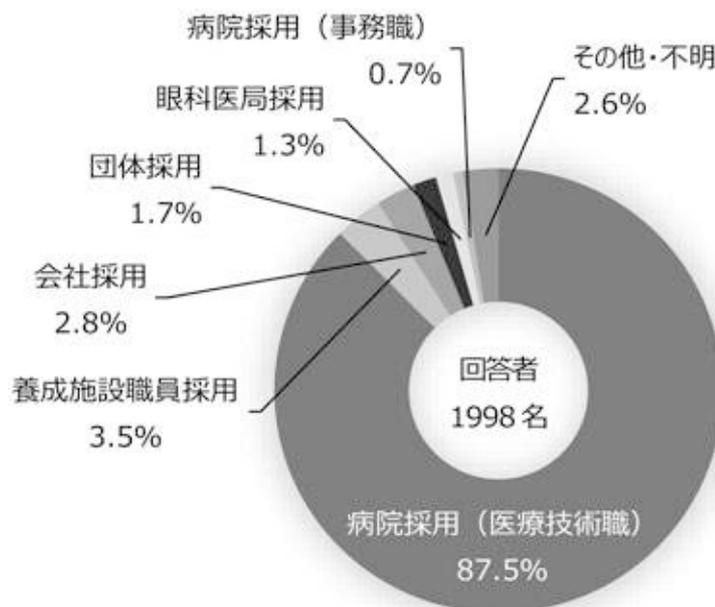
4) 採用形態

国立医療機関の勤務での採用形態は、「医療技術職としての病院採用」が88.2%と最も多かった。2010年は、「医療技術職としての病院採用」が71.2%、「眼科医局採用」7.2%、「文部科学技官」3.6%、「厚生労働技官」11.7%であり、今回の調査で採用形態に大きな変化がみられた（図II-6）。

国立医療機関以外の勤務での採用形態は、「医療技術職としての病院採用」が87.5%と最も多く、国立医療機関と同様の傾向を示した。2010年は、「医療技術職としての病院採用」が84.5%、「養成施設職員採用」2.1%、「会社採用」2.9%、「団体採用」2.0%「眼科医局採用」1.0%であり、採用形態に変化はみられなかった（図II-7）。



図II-6 国立医療機関の採用形態

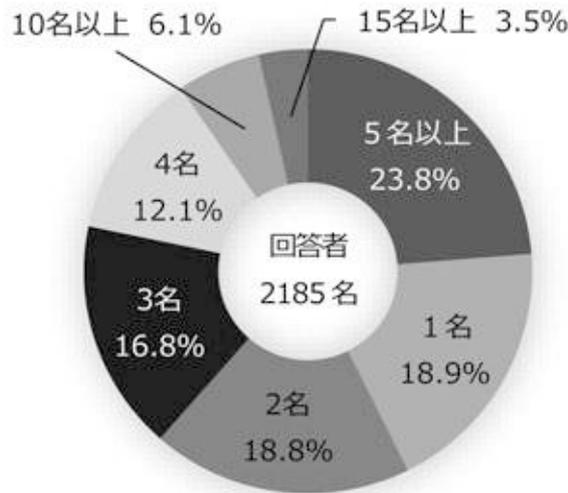


図II-7 国立医療機関以外の採用形態

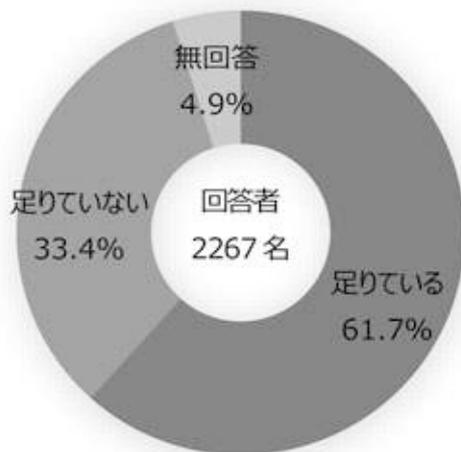
5) 施設内の視能訓練士数

同じ職場に勤務する視能訓練士の人数は、「正規職員」、「非正規職員」合わせて5名以上と回答した割合が23.8%と最も多く、次いで1名18.9%、2名18.8%、3名16.8%であった(図II-8)。また「正規職員」が在籍しない施設が9.4%あった。

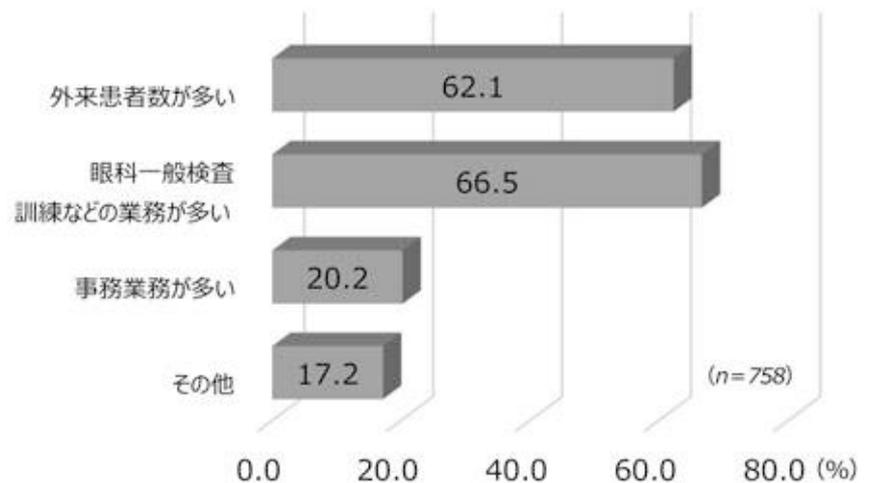
「常勤の視能訓練士数は足りていますか」の設問に対し、「足りている」61.7%、「足りていない」33.4%であった(図II-9)。足りていない理由として、「眼科一般検査、訓練などの業務が多い」66.5%、「外来患者数が多い」62.1%、「事務業務が多い」20.2%であった(図II-10)。



図II-8 同じ職場に勤務する視能訓練士の人数



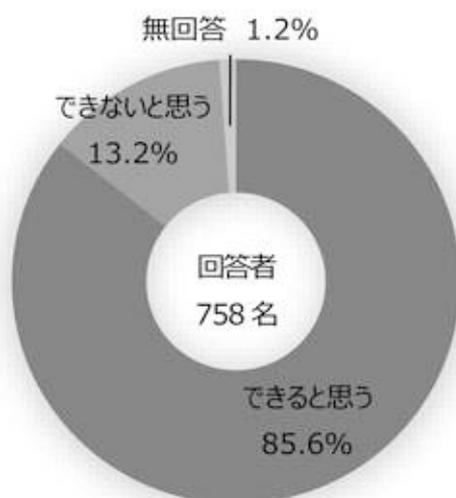
図II-9 常勤の視能訓練士の人数



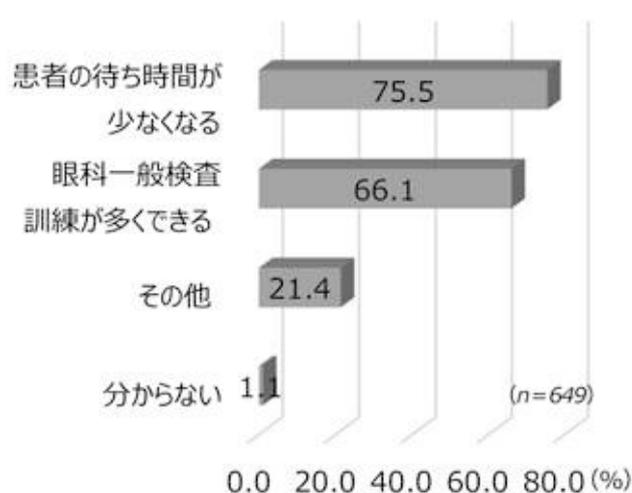
図II-10 視能訓練士が足りないと思う理由(複数回答)

6) 視能訓練士の増員による収益及びサービスの向上の可否に関する意見

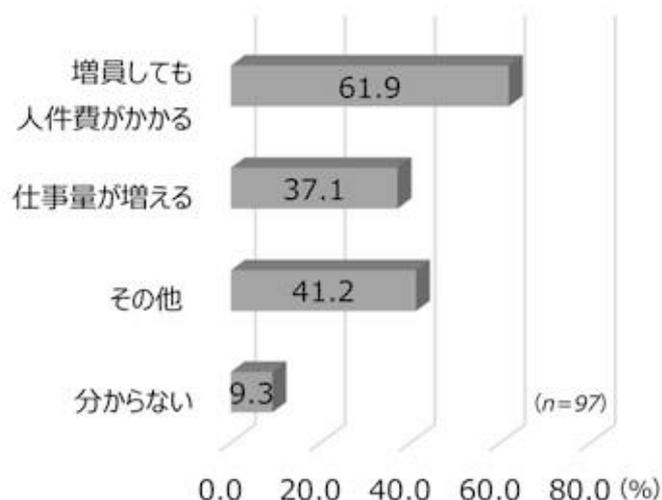
視能訓練士の増員による収益及びサービスの向上について、「できると思う」85.6%、「できないと思う」13.2%であった（図II-11）。収益及びサービスの向上ができると思う理由について、「患者の待ち時間が少なくなる」75.5%、「眼科一般検査、訓練が多くできる」66.1%であった（図II-12）。一方、収益及びサービスの向上ができないと思う理由については、「増員しても人件費がかかる」61.9%、「仕事量が増える」37.1%であった。またその他の理由として、「視能訓練士個々の質による」、「新人を増員しても教育に時間がかかる」や「医師や看護師の増員が必要」などの理由があった（図II-13）。



図II-11 視能訓練士の増員による収益及びサービスの向上



図II-12 増員により収益及びサービス向上ができる理由
(複数回答)



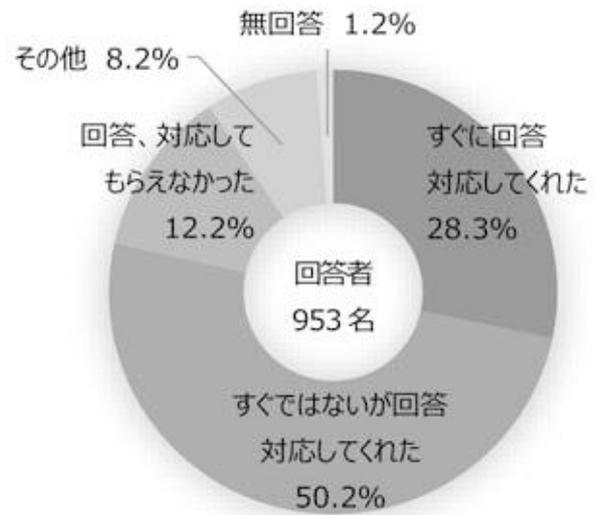
図II-13 増員しても収益及びサービス向上ができない理由
(複数回答)

7) 視能訓練士の増員や常勤化についての相談

視能訓練士の増員や常勤化について、「病院や医師へ相談したことがある」は42.0%、「ない」は53.7%であった(図II-14)。視能訓練士の増員や常勤化について相談した際の回答および対応は、「すぐに回答、対応してくれた」28.3%、「すぐではないが回答、対応してくれた」50.2%、一方「回答、対応してもらえなかった」は、12.2%であった。またその他の回答には、「すぐに回答はあったが、採用しないという回答であった」「すぐに対応、募集を出したが応募がなかった」などの回答があった(図II-15)。



図II-14 視能訓練士の増員・常勤化の相談



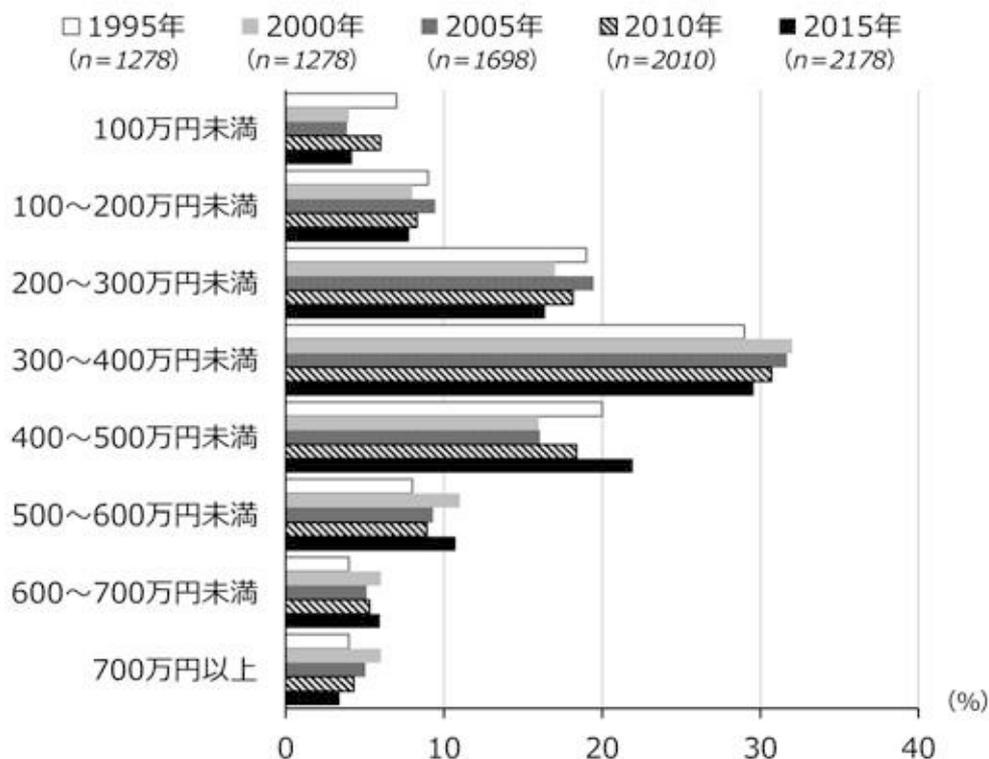
図II-15 病院や医師に相談した際の回答や対応

8) 年間所得

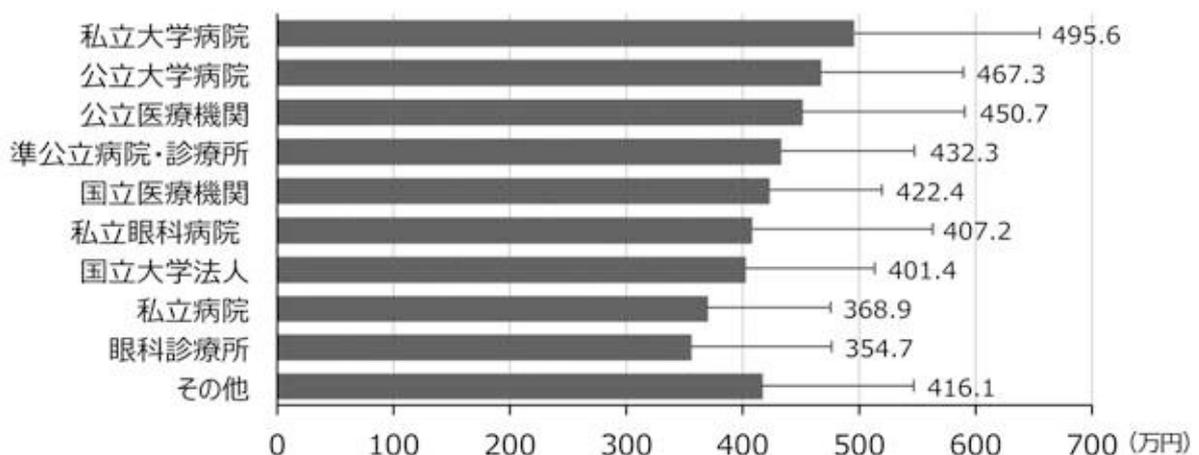
年間所得の分布は1995年から2015年まで大きな変化はみられず、最も多い年間所得帯は「300～400万円未満」であった。2015年では年間所得帯400万円未満までの割合がそれぞれ減少した一方、400～700万円未満までの割合が増加した(図II-16)。平均年間所得は、2010年が352.9万円、2015年が366.4万円と若干増加した。

2015年の調査において、勤務形態別の平均年間所得は「正規職員」405.7±138.5万円、「非正規職員」216.9±133.5万円であり、ばらつきは大きいものの2010年の調査と同様の傾向であった。時間給は890円～6000円、平均1846.9±746.9円であった。平均時間給の推移は、2000年は2003円、2005年は2674円、2010年は1949.8円と推移し、2010年からは減少傾向であった。

勤務施設別の年間所得は、「私立大学病院」の495.6万円が最も多く、次いで「公立大学病院」467.3万円、「公立医療機関」450.7万円、「準公立病院・診療所」432.3万円であり、2010年と同様の傾向であった(図II-17)。



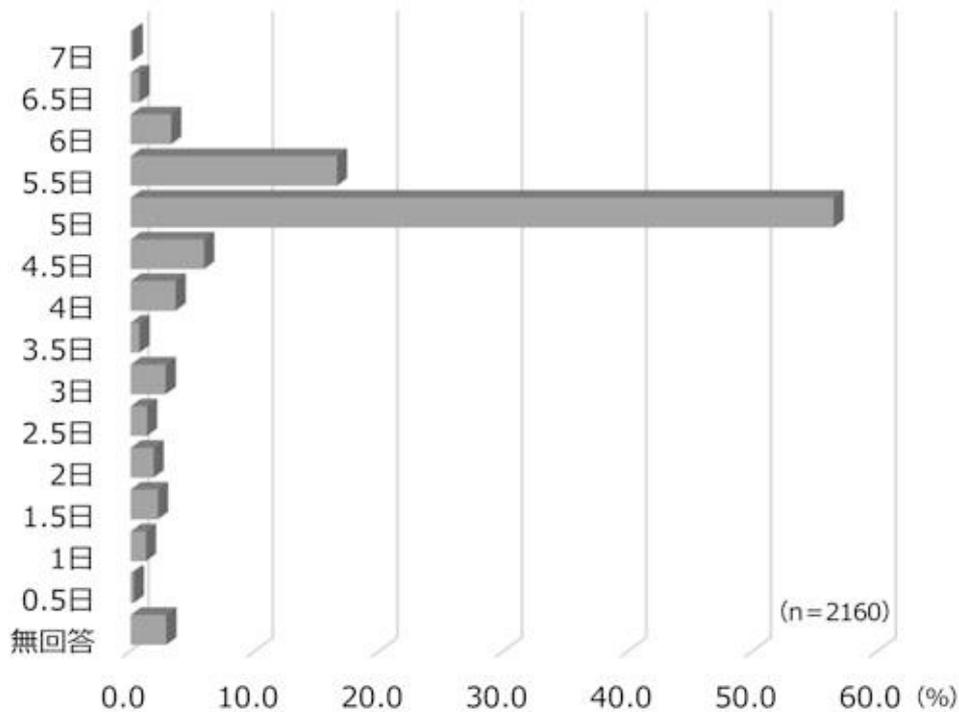
図II-16 年間所得 (調査年別の推移)



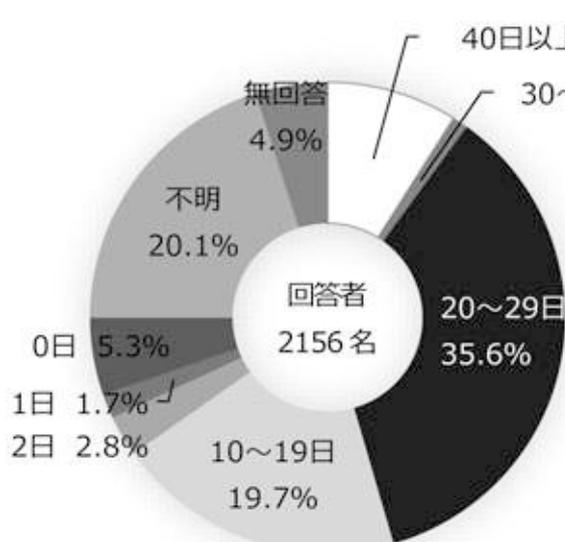
図II-17 勤務施設と年間所得

9) 勤務日数

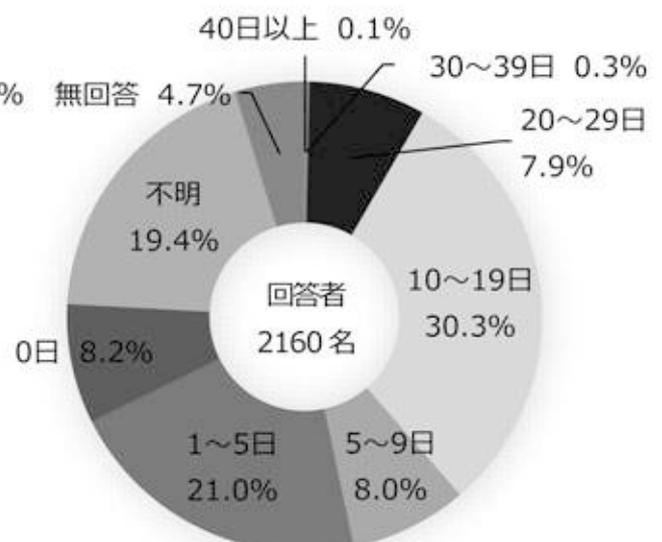
一週間の平均勤務日数は、「5日」が56.6%と最も多く、次いで「5.5日」16.6%、「4.5日」5.9%であった（図II-18）。年次有給休暇は「20～29日／年」が35.6%と最も多く、次いで「10～19日／年」19.7%であった（図II-19）。年次有給休暇の利用日数は、「10～19日／年」が30.3%と最も多く、次いで「1～5日／年」21.0%であった。また、年次有給休暇の日数および利用日数のいずれにおいても、「不明」との回答が20%程度あった（図II-20）。



図II-18 一週間の平均勤務日数



図II-19 一年間の年次有給休暇の日数



図II-20 一年間の有給休暇の利用日数

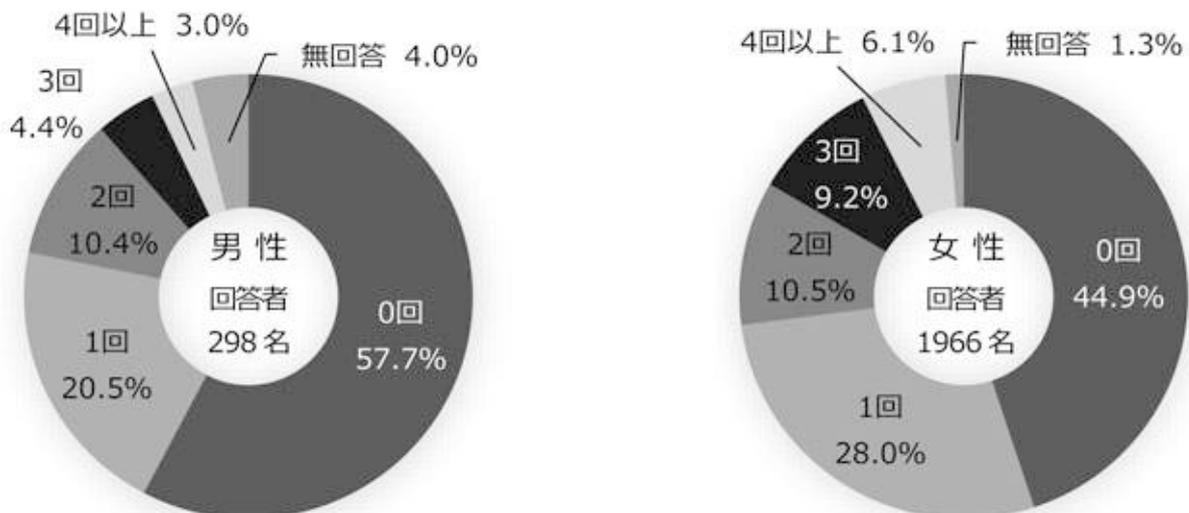
10) 勤務先の変更

視能訓練士となって勤務先を変えた回数は、「1回」27.0%、「2回」10.5%、「3回」8.5%、「4回以上」5.7%であり、「0回」は46.5%であった。回答者の50%以上が一度は職場を変更している結果となった(図II-21)。男女別にみると、勤務先を変えた回数が「1回」以上は、男性が38.3%、女性が53.8%であり、女性の方が多い結果であった(図II-22)。

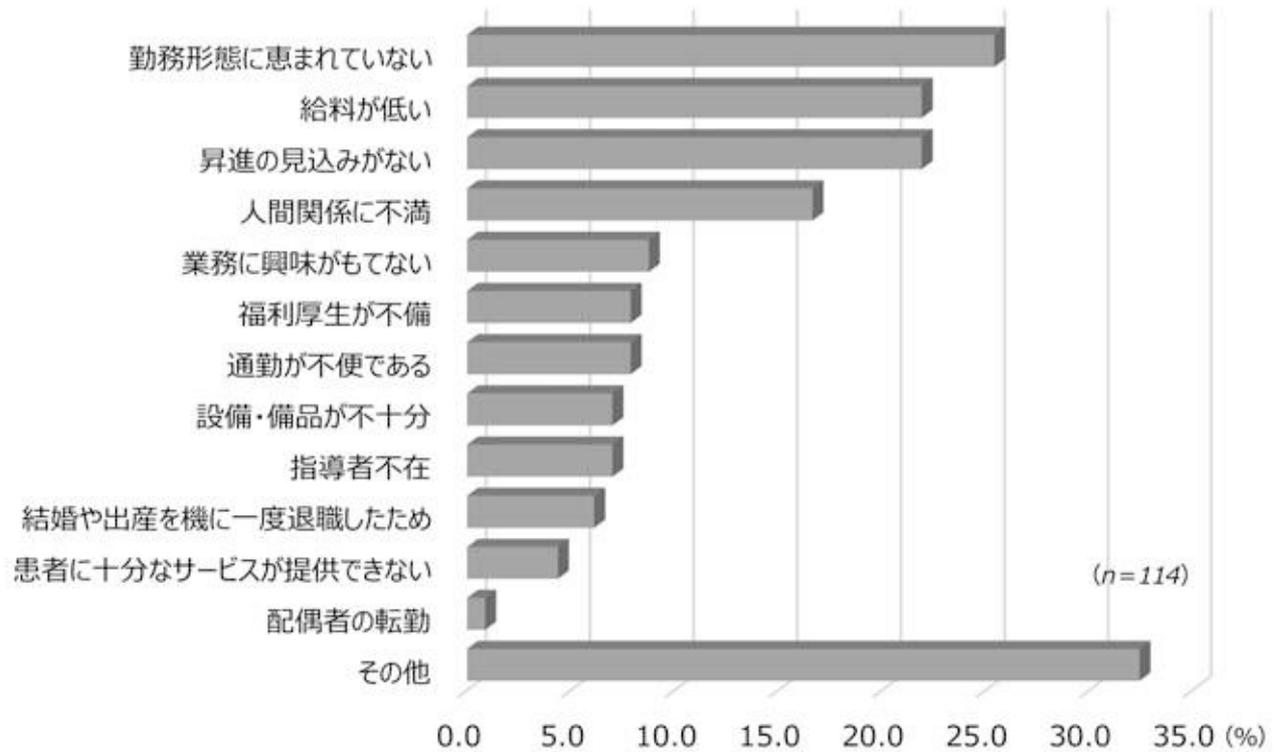
勤務先を変えた理由について、男性では「勤務形態に恵まれていない」25.4%、「給料が低い」21.9%、「昇進の見込みがない」21.9%、「人間関係に不満」16.7%であった。女性では、「結婚や出産を機に一度退職したため」31.7%、「人間関係に不満」17.7%、「勤務形態に恵まれていない」14.2%、「通勤が不便である」11.4%であった。勤務先の変更理由については、性別による特徴が示された(図II-23、24)。



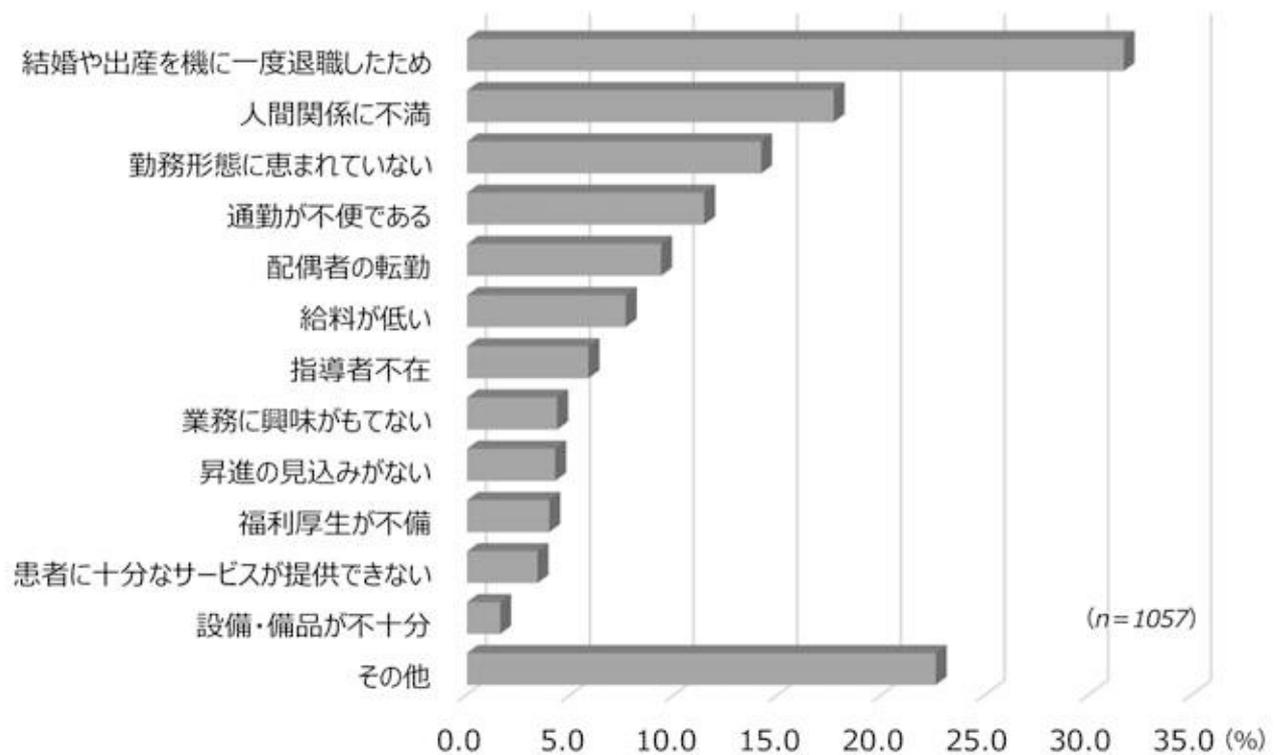
図II-21 勤務先を変更した回数



図II-22 男女別の勤務先変更の回数



図Ⅱ-23 男女別の勤務先変更の理由（男性）（複数回答）



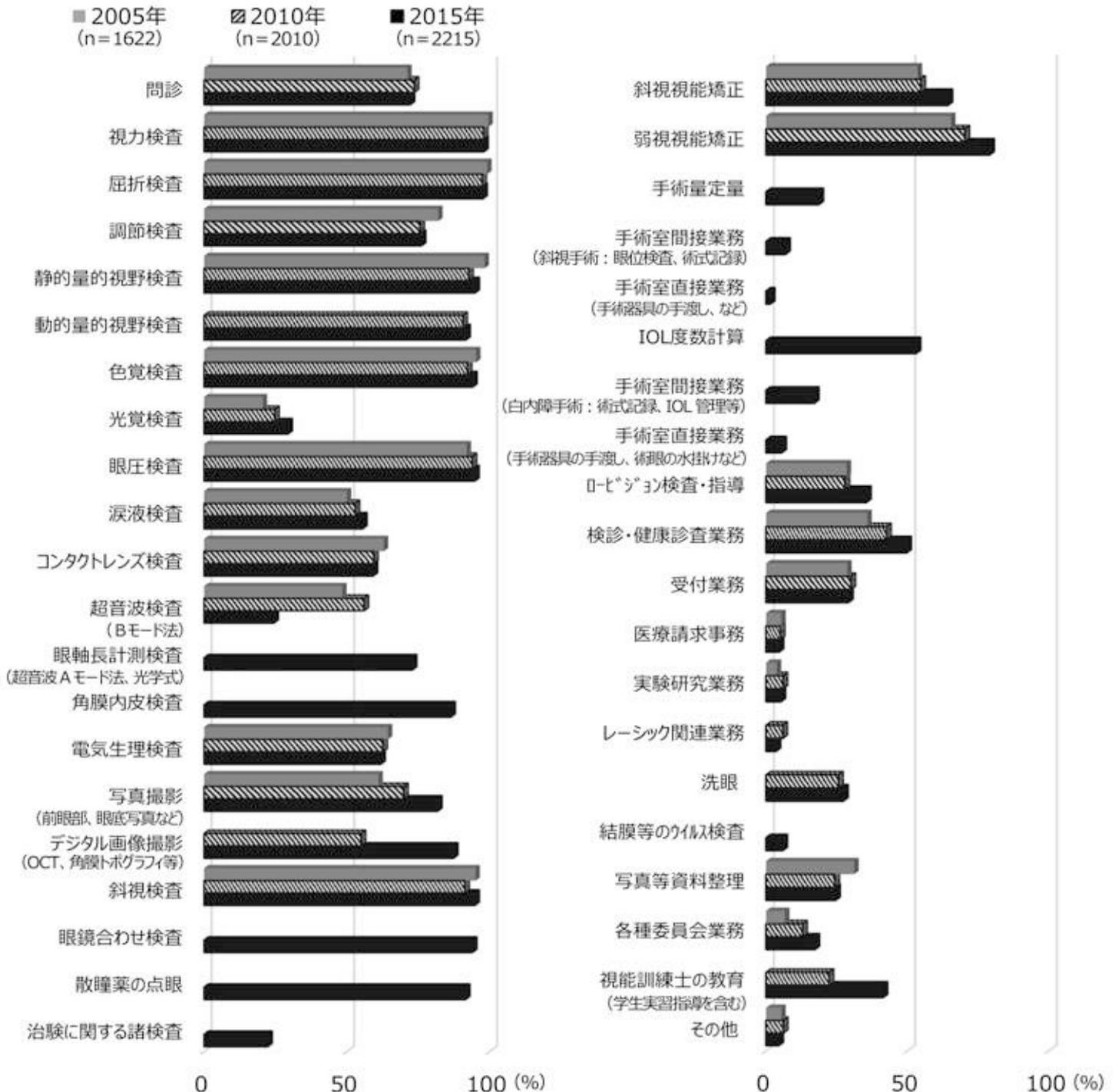
図Ⅱ-24 勤務先変更の理由（女性）（複数回答）

Ⅲ 勤務状況

注意：本アンケートは視能訓練士の業務内容の実態を把握するために実施しております。回答内にある一部の業務には視能訓練士の業務として不適切と思われるものも含まれており、ここに掲げられた業務全てが適法と評価されるものではありません。

1) 業務内容

業務内容について、全体的な傾向は変わらないが、「写真撮影（前眼部、眼底写真など）」81.9%、「デジタル画像撮影（OCT、角膜トポグラフィなど）」87.4%、「斜視視能矯正」64.3%、「弱視視能矯正」79.1%、「ロービジョン検査・指導」35.5%、「検診・健康診査業務」7.2%は、前回調査から5%以上増加した。特にデジタル画像撮影は30%以上の増加がみられた（図Ⅲ-1）。また今回は、「眼軸長計測検査」、「眼鏡合わせ」、「散瞳薬の点眼」、「治療に関する諸検査」、「IOL度数計算」、「手術室業務（直接/間接）」の項目を追加した。



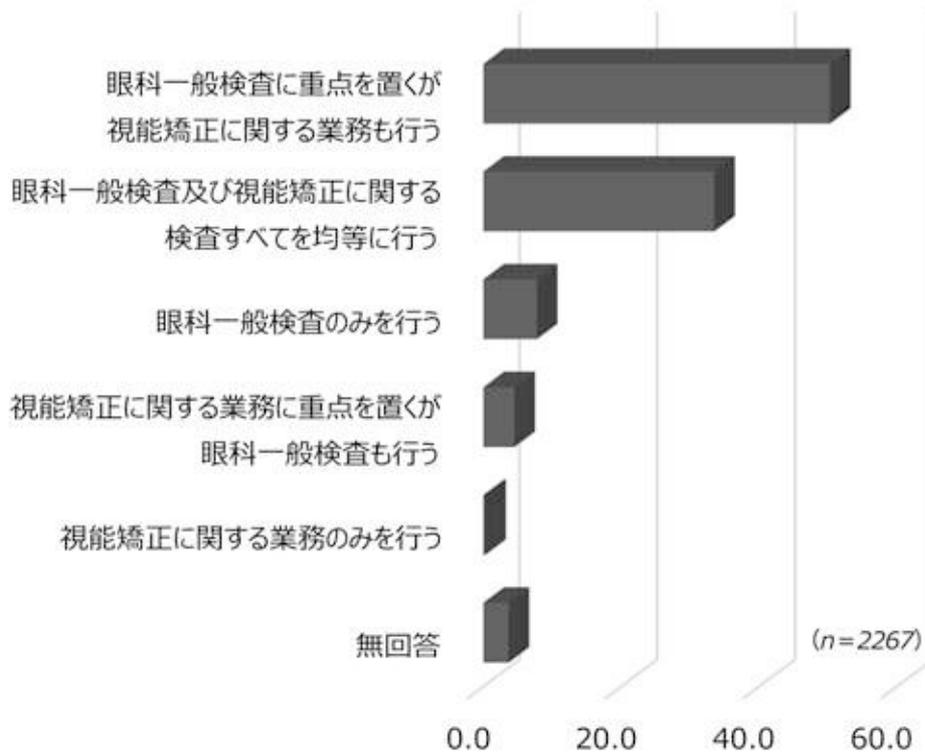
※ 2005年の「視野検査」は、静的/動的の区別がないため、「静眼的量的視野」の項目で示した。

※ 2005年の「弱視レンズ等」は、「ロービジョン検査・指導」の項目で示した。

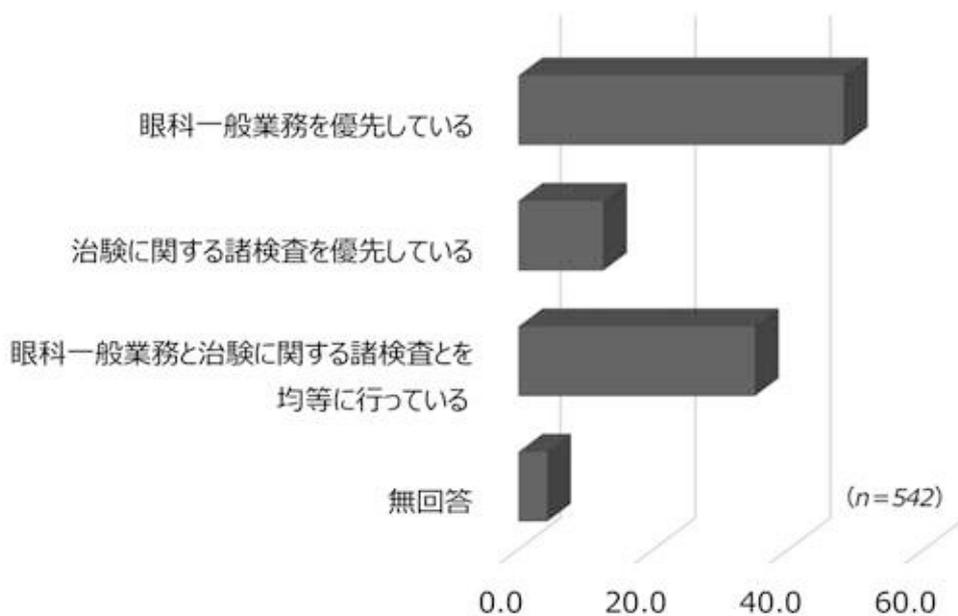
図Ⅲ-1 2005年、2010年、2015年の業務内容の比較（複数回答）

2) 業務概要

従事している業務概要について、「眼科一般検査に重点を置くが視能矯正に関する業務も行う」が50.3%と最も多かった(図Ⅲ-2)。また今回新たに設けた、眼科一般業務と治験に関する諸検査との優先度との関係についての質問では、「眼科一般業務を優先している」が48.2%、「治験に関する諸検査を優先している」が12.6%、「眼科一般業務と治験に関する諸検査とを均等に行っている」が35.0%であった(図Ⅲ-3)。



図Ⅲ-2 従事している業務概要

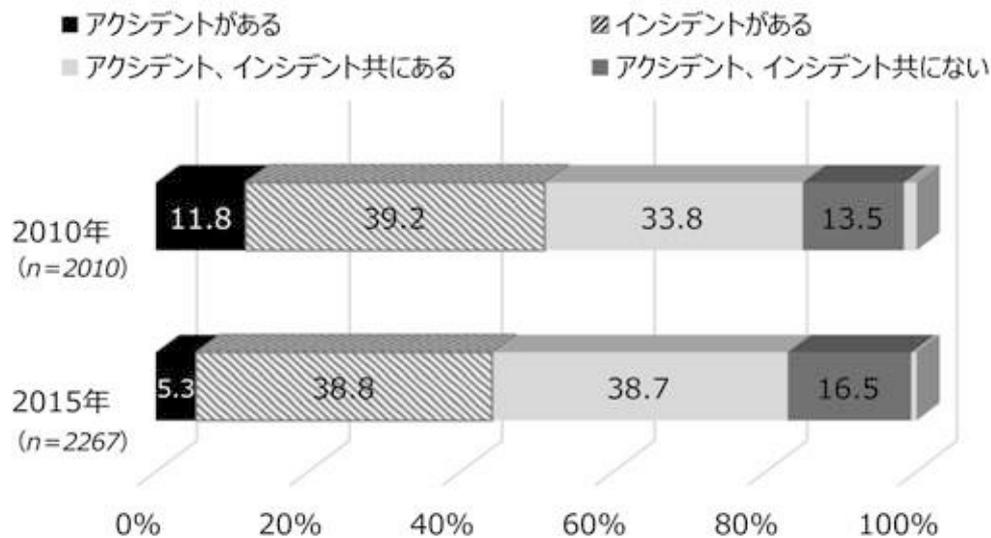


図Ⅲ-3 眼科一般業務と治験に関する諸検査との優先度との関係

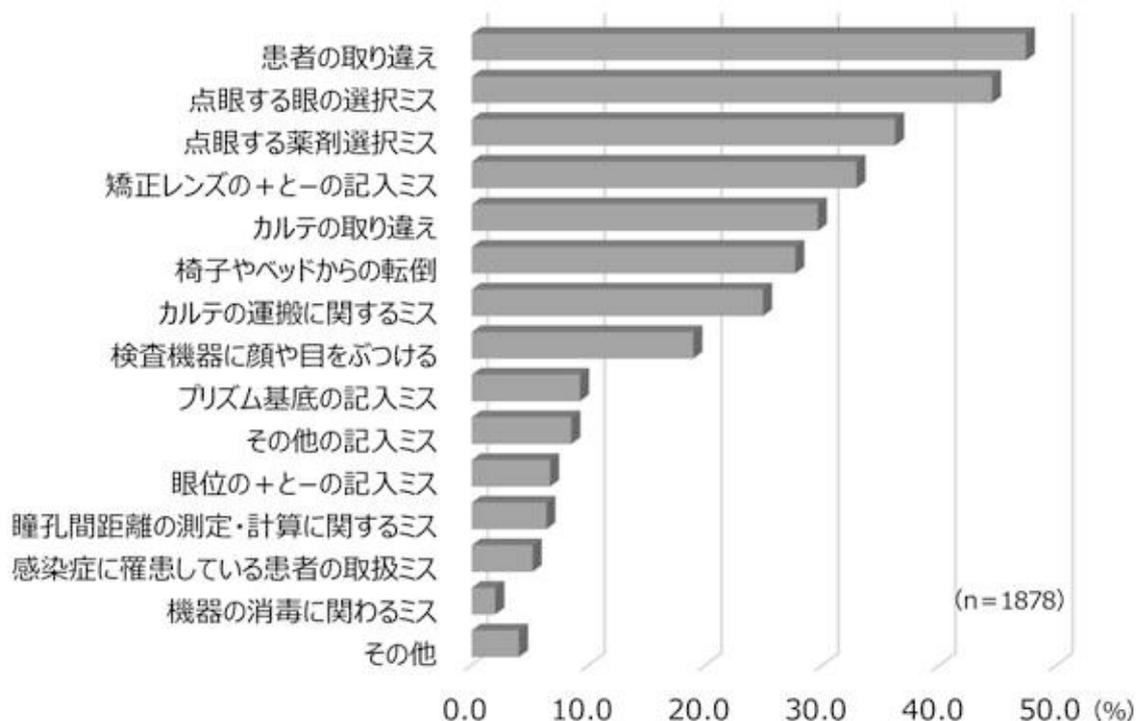
3) 医療事故

2010年から医療事故に関する調査項目が追加された。「インシデント」や「アクシデント」を経験したことがあると答えた回答者は、2010年は84.8%、2015年は82.8%であり、同様の傾向であった(図Ⅲ-4)。

「インシデント」や「アクシデント」の内容は、「患者の取り違え」が47.4%と最も多く、次いで「点眼する眼の選択ミス」44.5%、「点眼する薬剤選択ミス」36.2%、「矯正レンズの+と-の記入ミス」32.9%などが上位を占めた(図Ⅲ-5)。



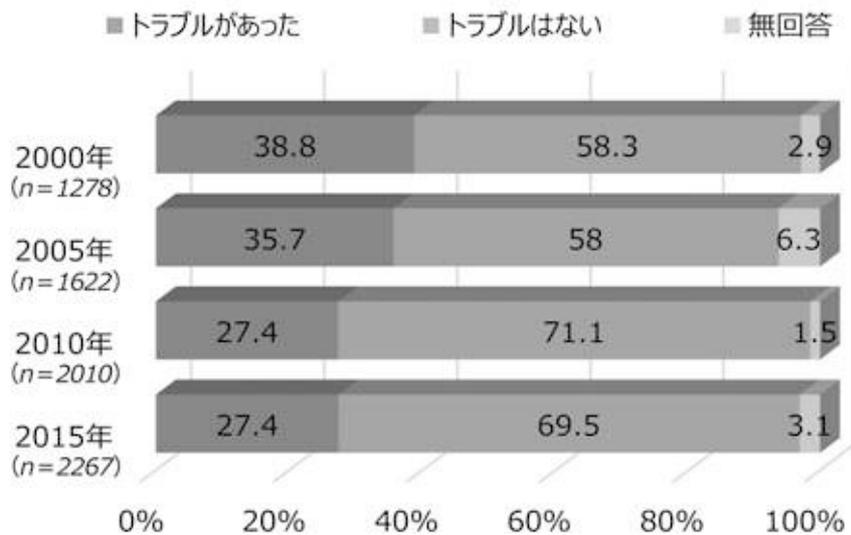
図Ⅲ-4 インシデント・アクシデントの経験(調査年別の推移)



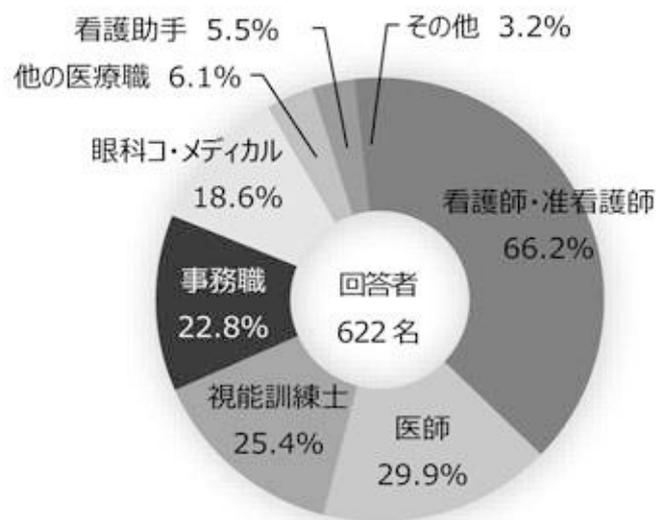
図Ⅲ-5 インシデント・アクシデントの内容(複数回答)

4) 他の医療関連職種とのトラブル

他の医療関連職種とのトラブルについて、「ある」は2000年は38.8%、2005年は35.7%、2010年は27.4%と、5年ごとに減少傾向にあったが、2015年は27.4%で2010年と同様であった(図Ⅲ-6)。トラブルがあった職種は、「看護師・准看護師」66.2%、「医師」29.9%、「他の視能訓練士」25.4%、「事務職」22.8%であった。「その他」には、眼鏡店や保健師などの回答があった(図Ⅲ-7)。



図Ⅲ-6 他の医療関連職種とのトラブルの有無(調査年別の推移)



図Ⅲ-7 トラブルがあった医療関連職種(複数回答)

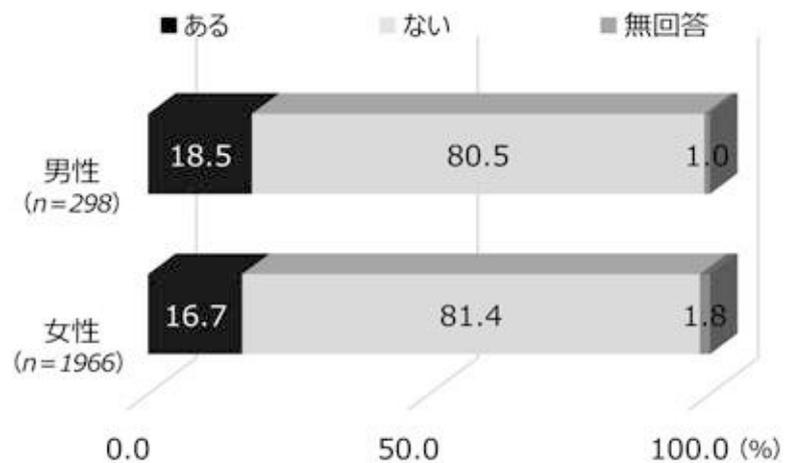
5) ハラスメント

近年、職場におけるハラスメントは社会問題として顕在化しており、関係省庁による有識者会議の設置や企業・団体に対する実態調査など、ハラスメント問題の防止・解決に向けた環境整備や対策が進んできている。このような背景から、今回の調査では、ハラスメントに関する項目を新たに設けた。

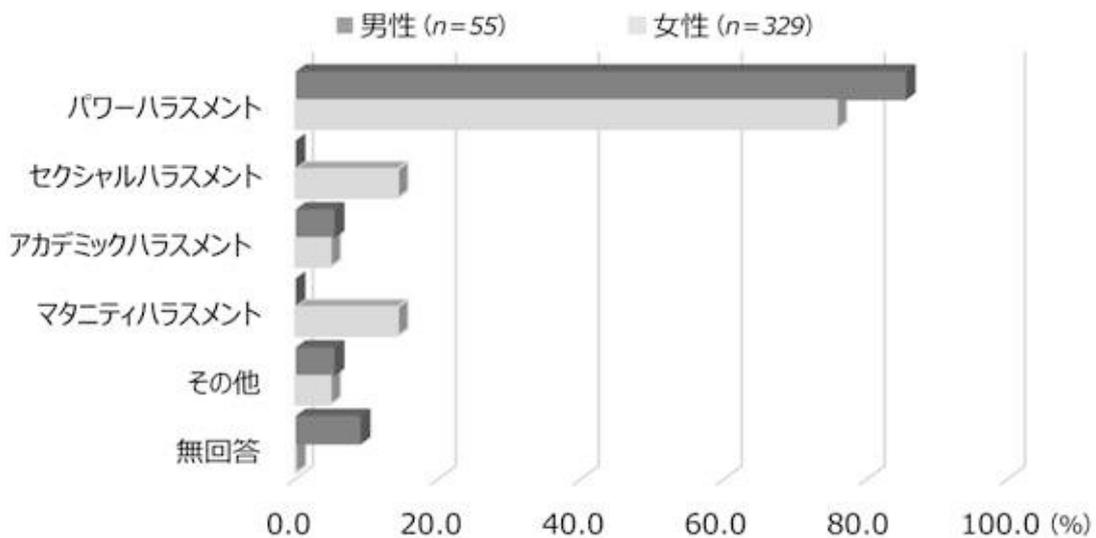
ハラスメントを受けたことが「ある」と回答したのは16.9%であった(図Ⅲ-8)。男女別では、「ある」と回答したのは、男性18.5%、女性16.7%であり差はみられなかった(図Ⅲ-9)。ハラスメントの内容を男女別にみると、男女ともに「パワーハラスメント」が最も多い結果となった。また、女性では「セクシャルハラスメント」や「マタニティハラスメント」も14%程度の回答があった(図Ⅲ-10)。



図Ⅲ-8 ハラスメントを受けた経験



図Ⅲ-9 ハラスメントを受けた経験(男女別)

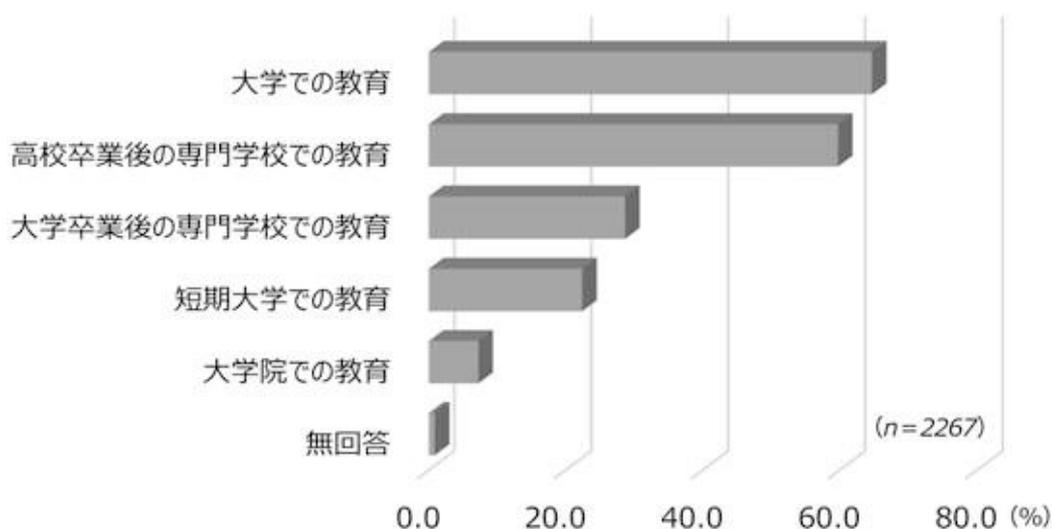


図Ⅲ-10 ハラスメントの内容(男女別) (複数回答)

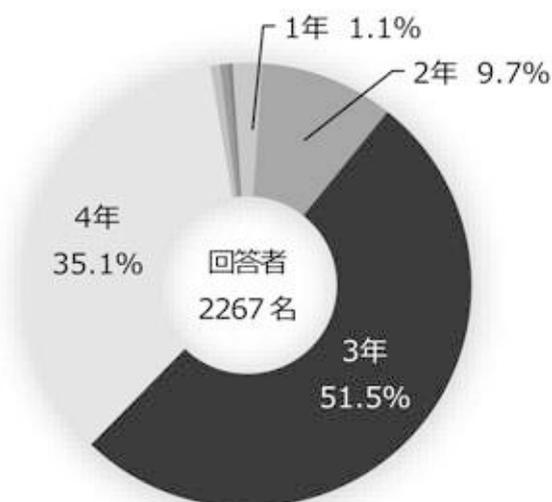
IV 視能訓練士の養成

1) 教育機関と修業年数

視能訓練士の養成に適した教育機関は、「大学での教育」が64.7%で最も多く、次いで「高校卒業後の専門学校での教育」59.8%、「大学卒業後の専門学校での教育」28.7%であった（図IV-1）。また、視能訓練士の基礎分野および専門分野の教育に必要な期間については、「3年」51.5%、「4年」35.1%と、少なくとも3年以上は要するとの回答が85%以上を占めた（図IV-2）。



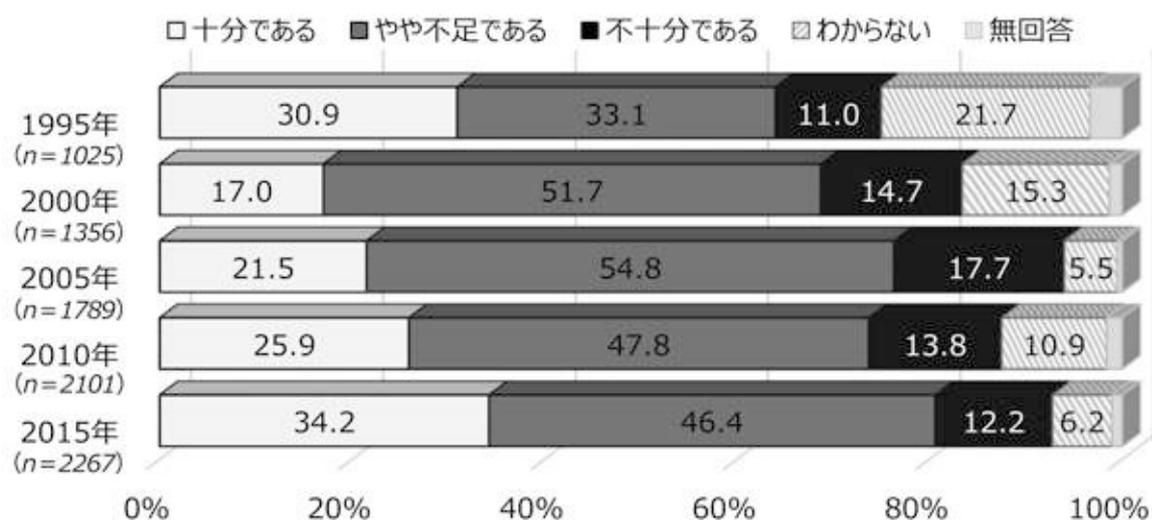
図IV-1 視能訓練士養成に適した教育機関（複数回答）



図IV-2 視能訓練士の基礎分野および専門分野の教育に必要な期間

2) 教育内容の評価

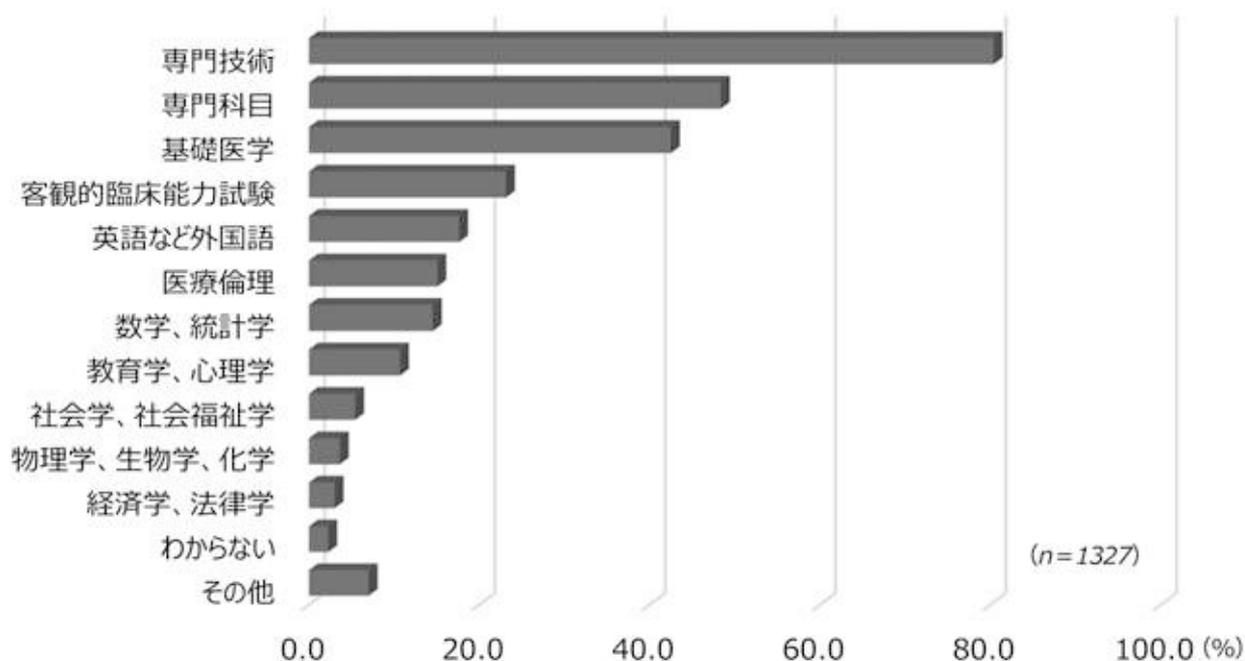
卒前教育の内容について、「十分である」34.2%、「やや不足である」46.4%、「不十分である」12.2%であった。「十分である」との回答は2010年の調査よりも8%程度増加したが、1995年の調査開始以来、卒前教育の内容が「やや不足である」、「不十分である」が「十分である」との回答を上回っている状況は続いている(図IV-3)。



図IV-3 教育内容の評価

3) 最も充実を必要とする科目

卒前の教育内容のうち充実を要する科目は、「専門技術」80.4%、「専門科目」48.4%、「基礎医学」42.5%が上位を占め、2010年の調査と同様であった。また今回の調査で選択項目に追加した「客観的臨床能力試験 (OSCE) などの臨床技能評価」も23.1%であり、充実を要する科目の上位に挙げられた(図IV-4)。



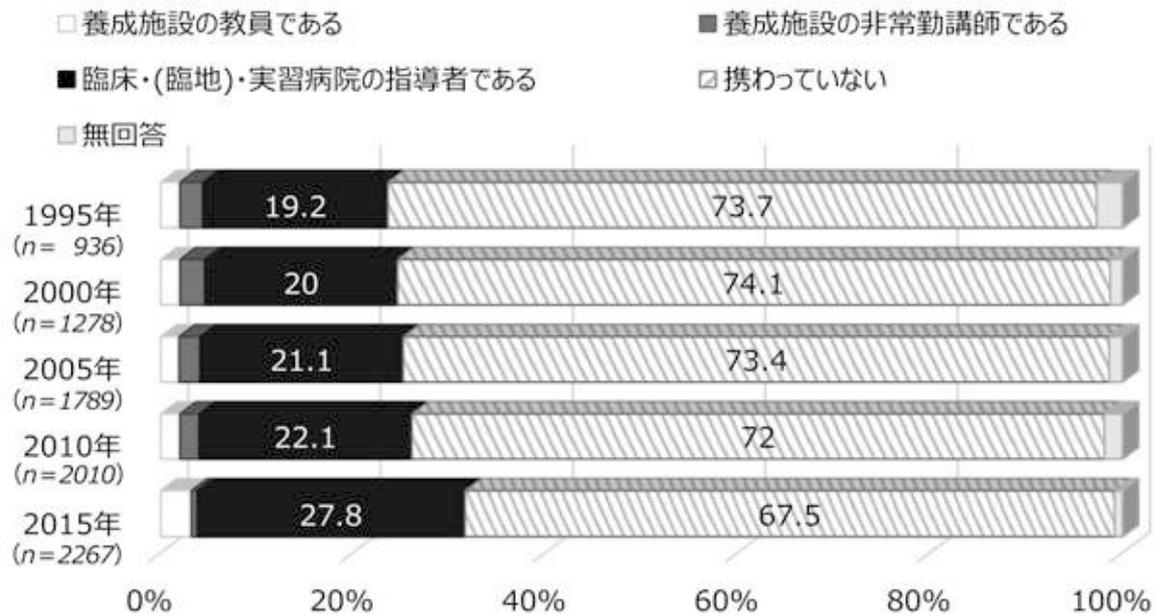
図IV-4 充実を必要とする科目 (複数回答)

4) 視能訓練士教育への関わり

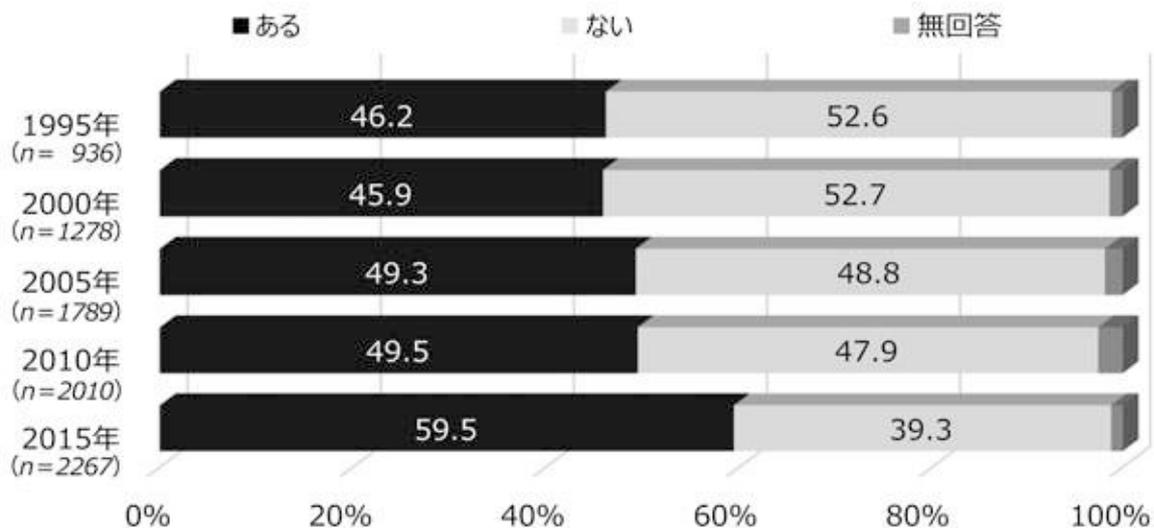
視能訓練士の卒前教育への関わりについて、「養成施設の教員である」、「養成施設の非常勤講師である」が合わせて3.8%、「臨床・(臨床)・実習病院の指導者である」が27.8%であり、いずれかの形で携わっているのが31.6%であった。一方で「携わっていない」が67.5%であり、経年的に減少傾向にあるものの、携わっていないという回答が圧倒的に多い結果となった(図IV-5)。

臨床(臨床)実習の受け入れ経験では、「ある」59.5%、「ない」39.3%であった。今回の調査では、臨床実習の受け入れ経験が「ある」の回答が増加した(図IV-6)。今後の臨床(臨床)実習の受け入れについては、「引き受ける」27.2%、「継続のみ引き受け、新規は引き受けられない」14.4%、「新規・継続ともに引き受けられない」50.8%であり、前回の調査と比較して「引き受けられない」との回答は減少したものの、半数を占めた(図IV-7)。

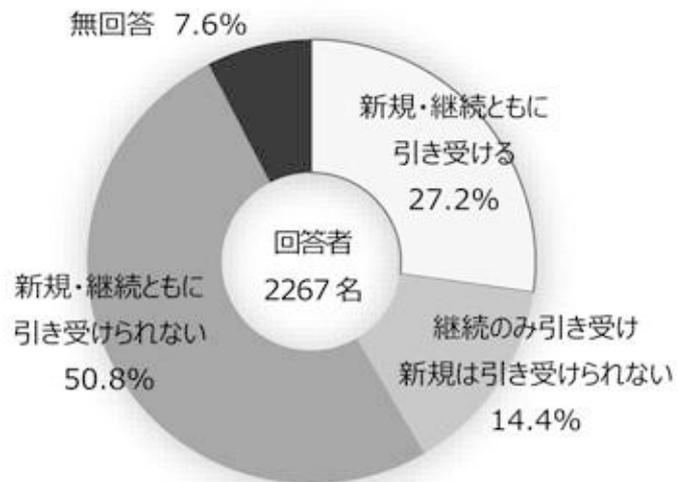
「引き受けられない」理由は、「現在の施設状態では不適當である」50.0%、「忙しい」40.5%であった(図IV-8)。



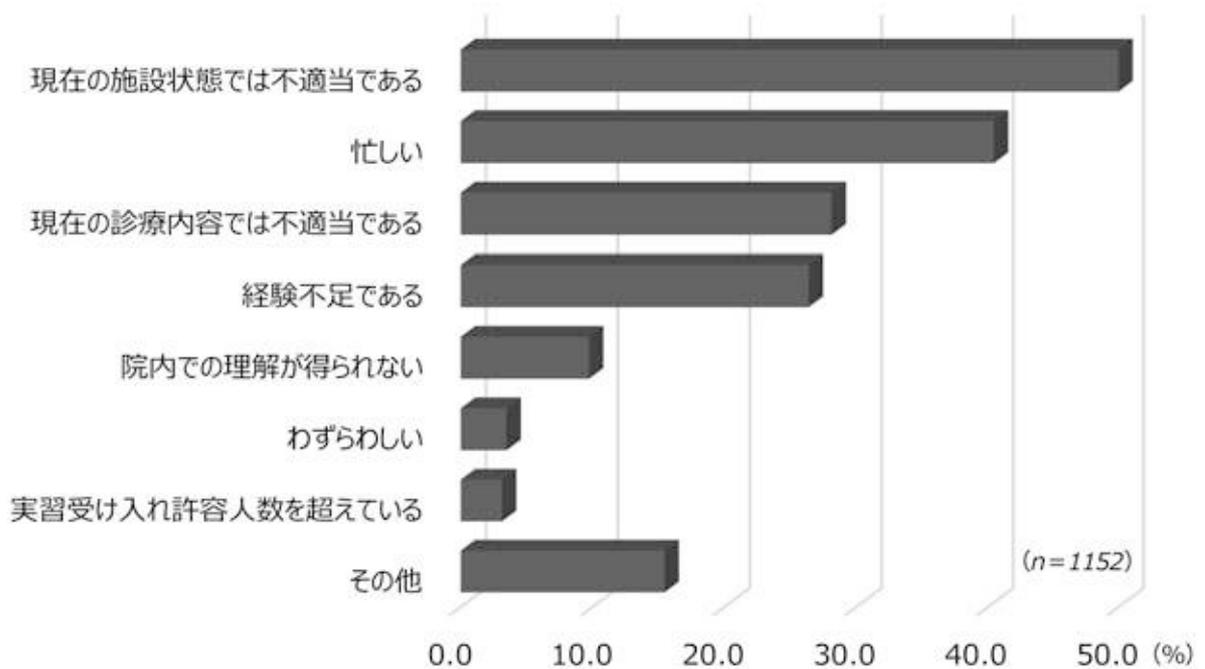
図IV-5 卒前教育への関与



図IV-6 臨床(臨床)実習の受け入れ経験



図IV-7 今後の臨床（臨床）実習の受け入れについて



図IV-8 臨床（臨床）実習を引き受けられない理由（複数回答）

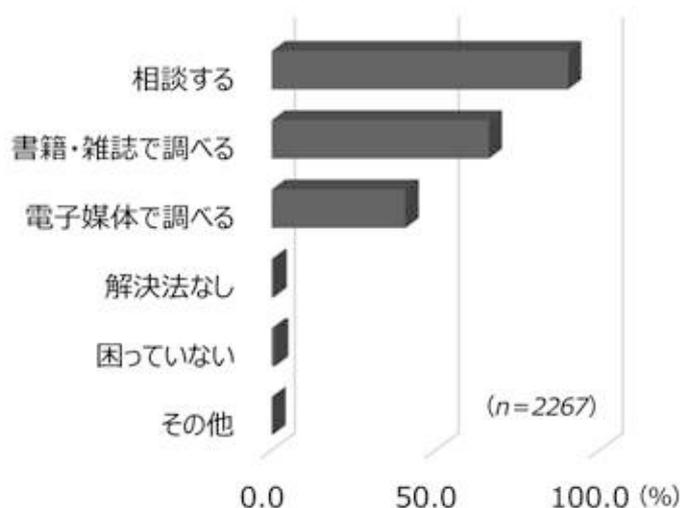
V 卒後教育

1) 業務上の問題点や疑問点の解決方法

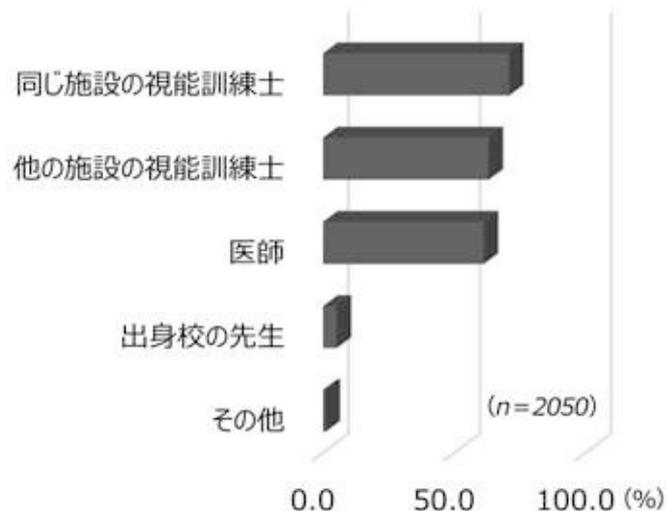
業務上生じた問題点や疑問点の解決方法については、「相談する」90.4%、「書籍・雑誌で調べる」66.2%、「電子媒体で調べる」40.8%であった（図V-1）。

相談による解決について、その相談先は、「同じ施設の視能訓練士」70.7%、「他の施設の視能訓練士」62.9%、「医師」61.1%であった（図V-2）。

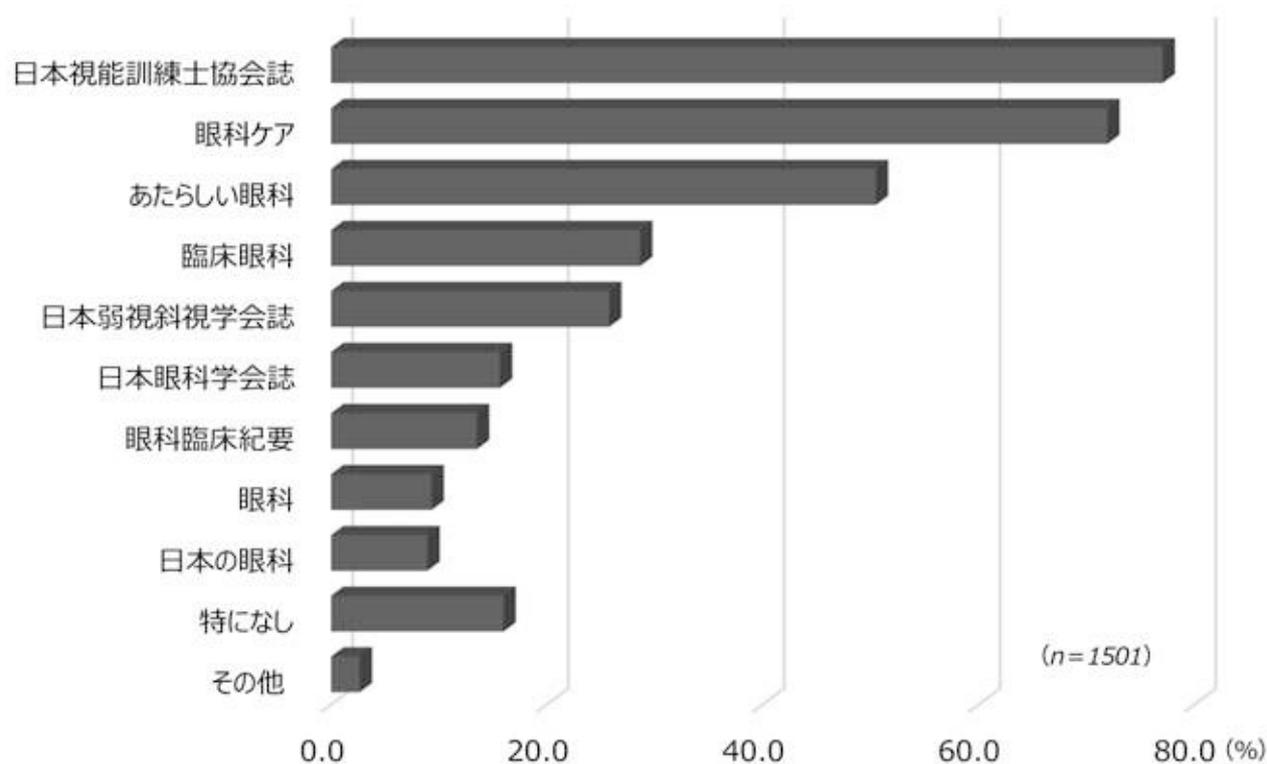
書籍・雑誌による解決について、よく利用する雑誌は「日本視能訓練士協会誌」77.1%、「眼科ケア」72.0%、「あたらしい眼科」50.5%が上位であった。「その他」として、他の学会誌や Investigative Ophthalmology & Visual Science などの海外の雑誌があった（図V-3）。



図V-1 業務上の問題点の解決方法（複数回答）



図V-2 業務上の問題点の相談先（複数回答）

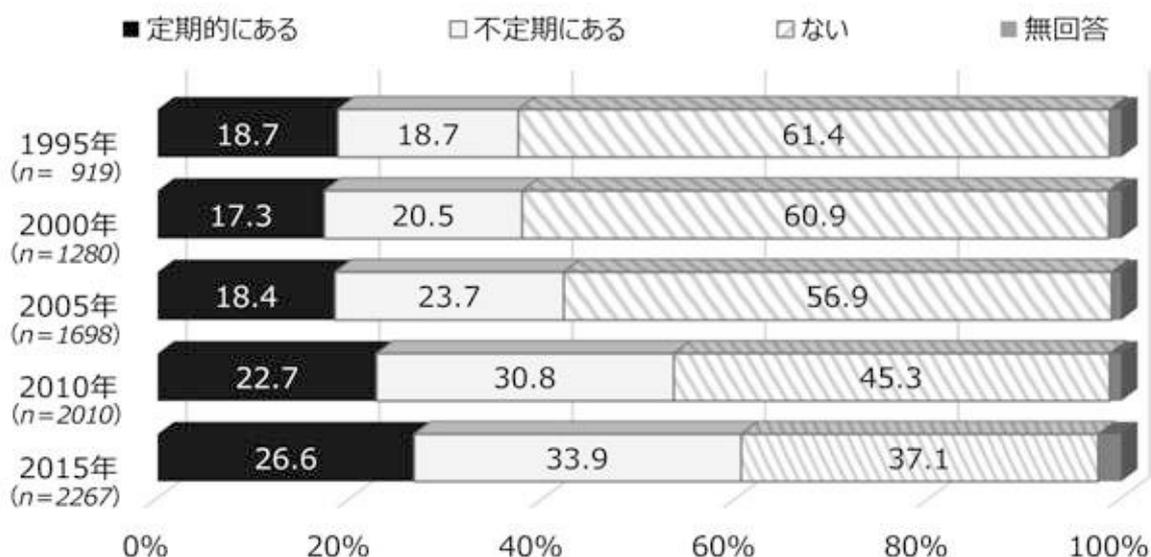


図V-3 よく利用する雑誌（複数回答）

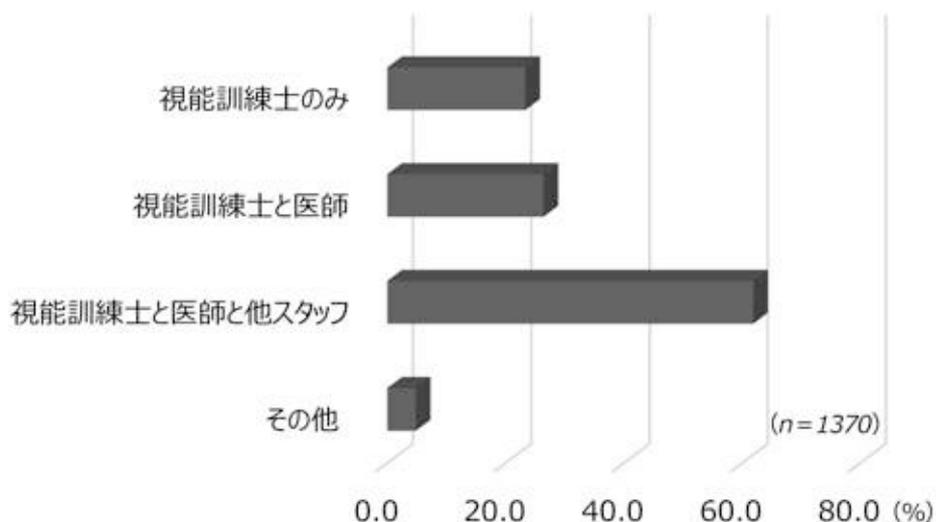
2) 職場内の勉強会

1995年の調査では、職場内の勉強会が「定期的にある」・「不定期にある」が合わせて37.4%であったが、5年の調査ごとに増加し、2015年では、「定期的にある」26.6%、「不定期にある」33.9%であった(図V-4)。

勉強会の参加者は「視能訓練士と医師と他スタッフ」61.9%と最も多く、「視能訓練士と医師」26.4%、「視能訓練士のみ」23.4%であった。その他、視能訓練士と他の医療スタッフ、視能訓練士と看護師などの解答があった(図V-5)。



図V-4 職場内勉強会の有無

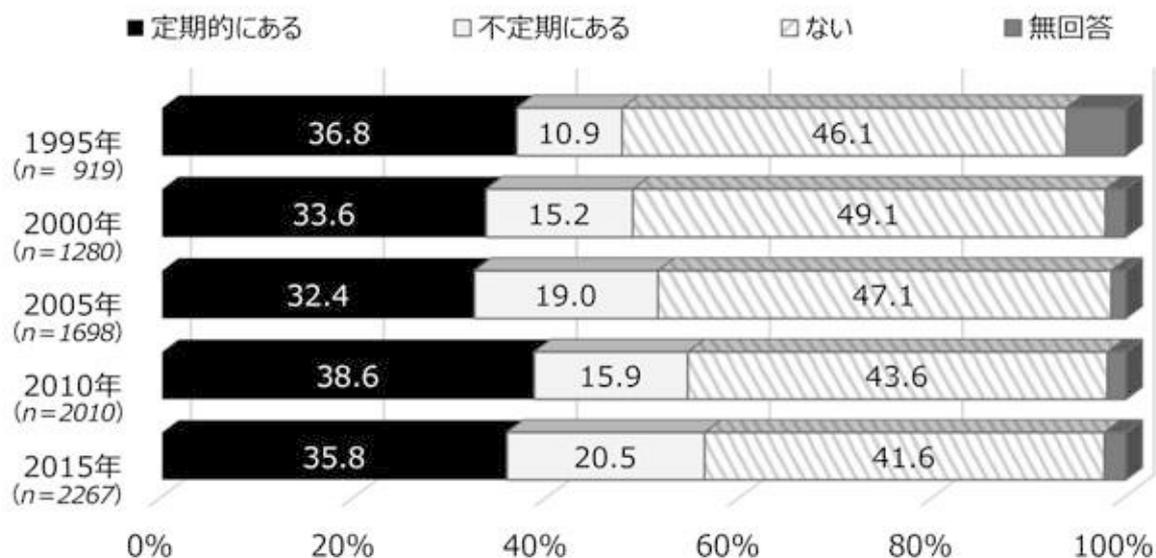


図V-5 勉強会の参加者 (複数回答)

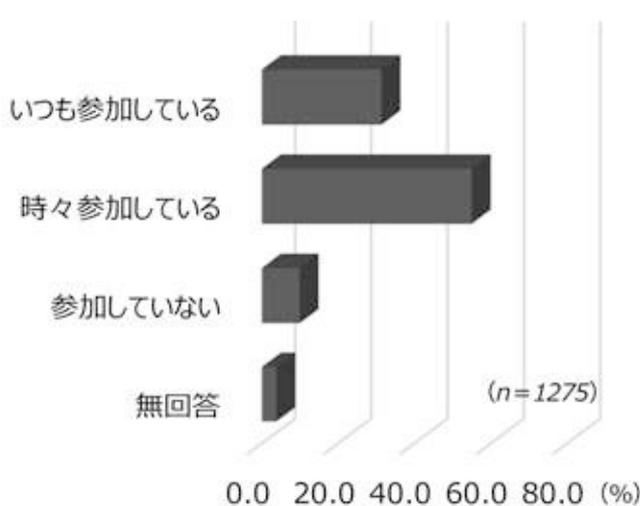
3) 職場外の勉強会

1995年の調査では、職場外の勉強会が「定期的にある」・「不定期にある」が合わせて47.7%であったが、5年の調査ごとに増加し、2015年では、「定期的にある」35.8%、「不定期にある」20.5%であった(図V-6)。

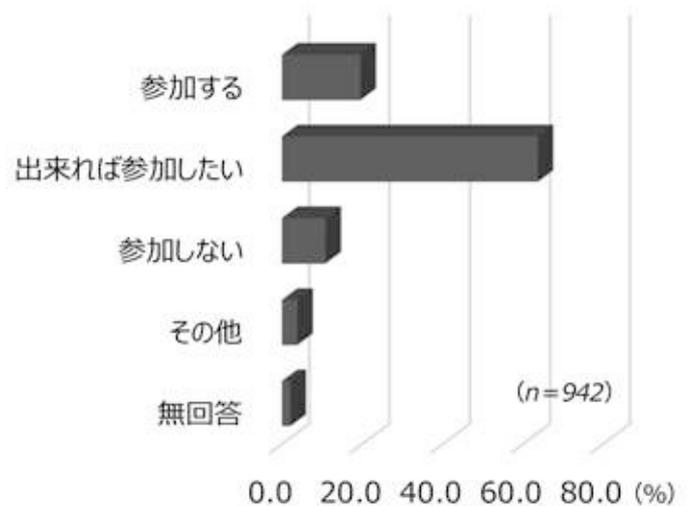
職場外の勉強会で、「定期にある」または「不定期にある」と回答した回答者の参加状況については、「いつも参加している」31.4%、「時々参加している」55.0%で、「参加していない」が9.9%であった(図V-7)。一方、職場外勉強会が「ない」と回答した回答者に、勉強会があった場合の参加の有無について質問したところ、「参加する」19.5%、「できれば参加したい」63.7%、「参加しない」10.8%であった。「その他」の回答として、「内容による」や「近隣であれば参加する」などの回答があった(図V-8)。



図V-6 職場外勉強会の有無



図V-7 職場外勉強会の参加状況

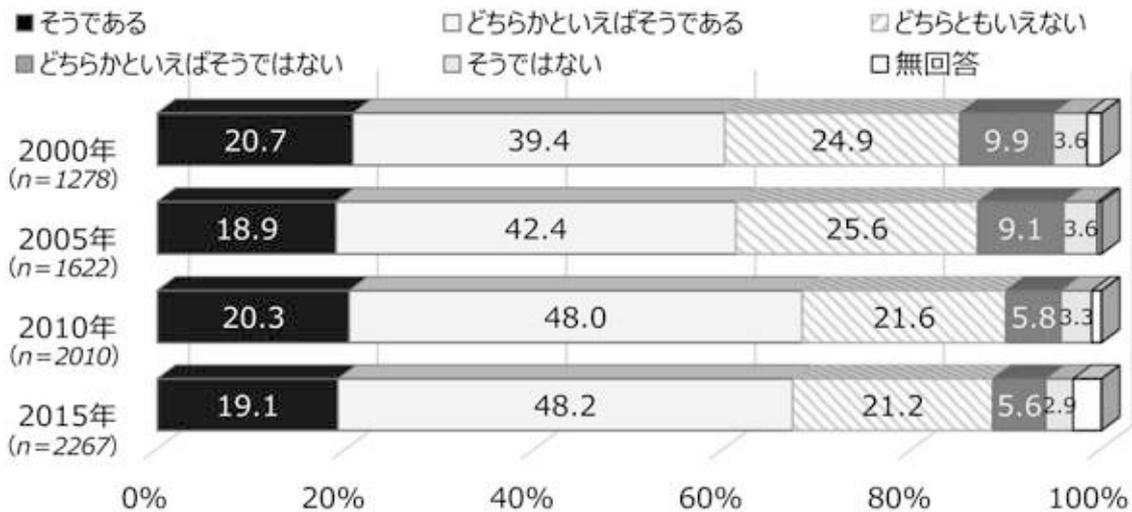


図V-8 職場外勉強会への参加の意思

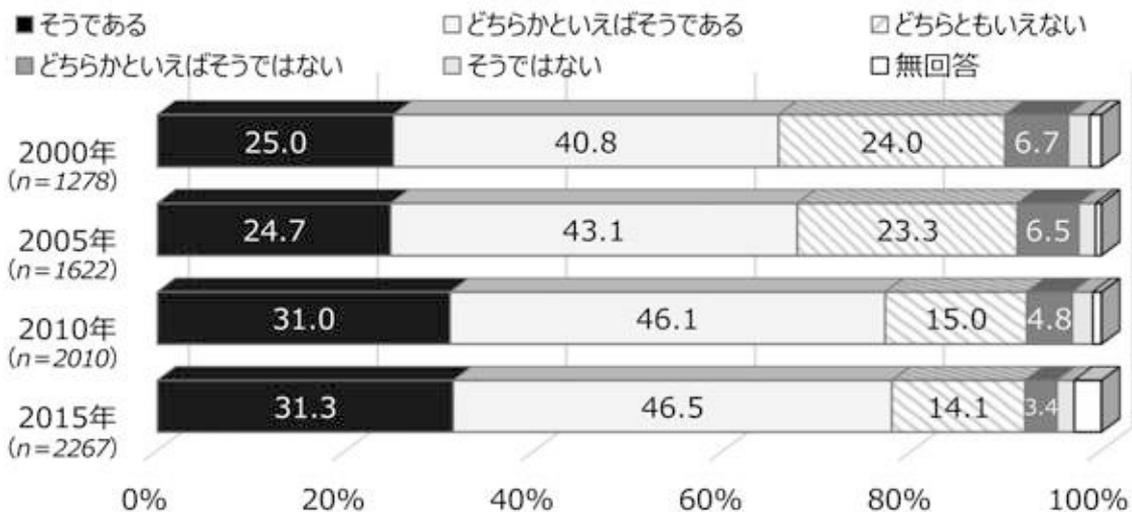
VI 将来展望

1) 職場状況の評価

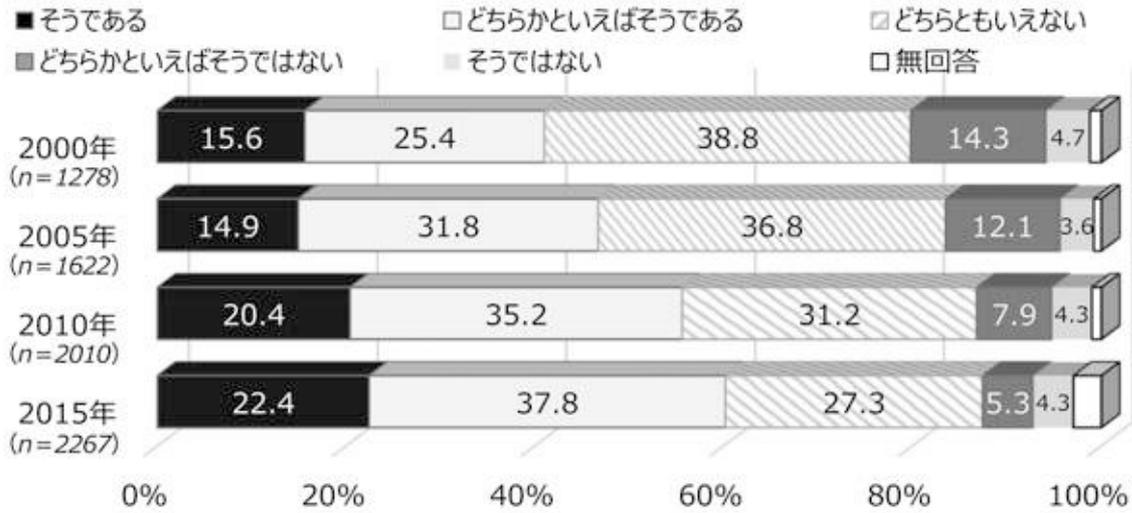
現在の職場に対する満足度（5項目）について、5段階で評価した。各項目で、「そうである」・「どちらかといえばそうである」の肯定的な意見は、「仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる」では67.3%、「自分の責任で行える仕事が多い」では77.8%、「単純でつまらない仕事は少ない」では60.2%、「自分たちの仕事は尊重されている」では72.0%、「自分の仕事の範囲がはっきりしている」では67.2%であり、いずれの項目でも肯定的な意見が60%を超える結果であった（図V-1～5）。



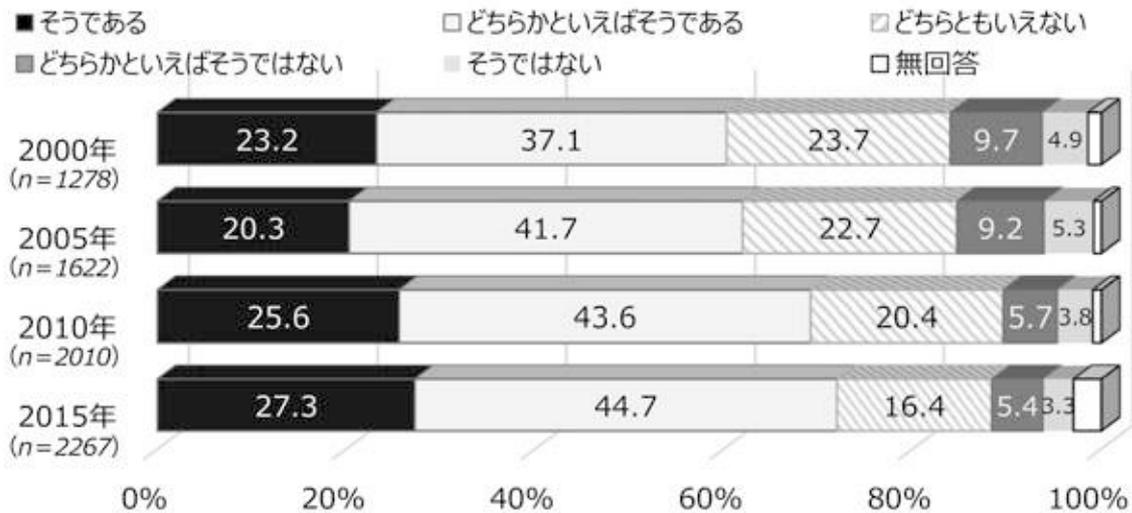
図VI-1 仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる



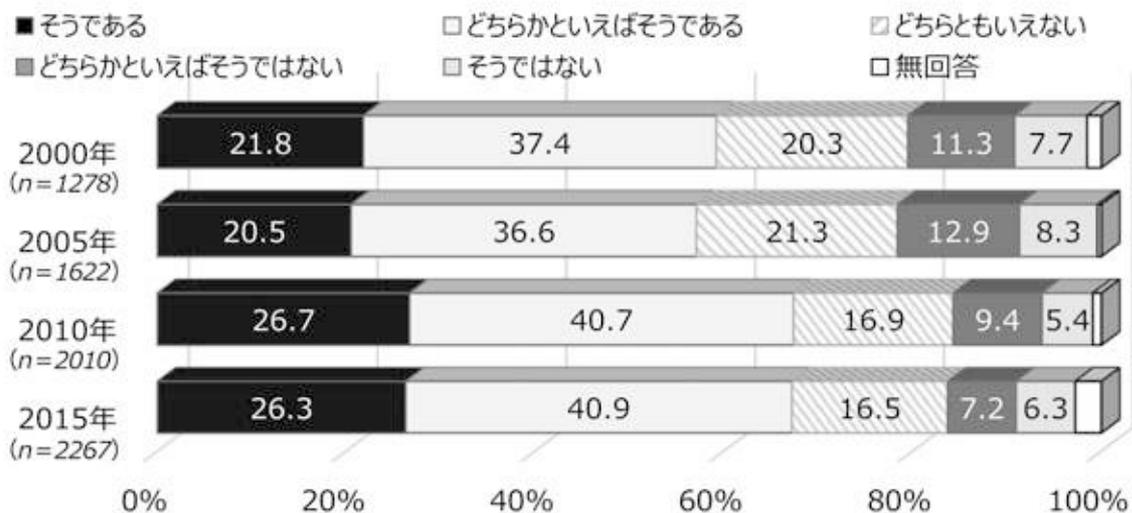
図VI-2 自分の責任で行える仕事が多い



図VI-3 単純でつまらない仕事は少ない



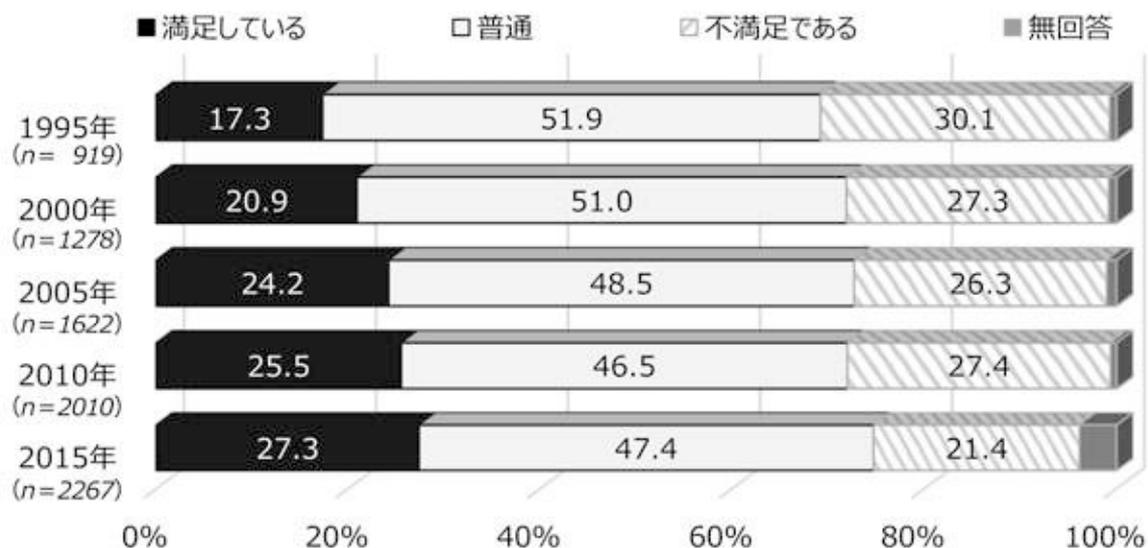
図VI-4 自分たちの仕事は尊重されている



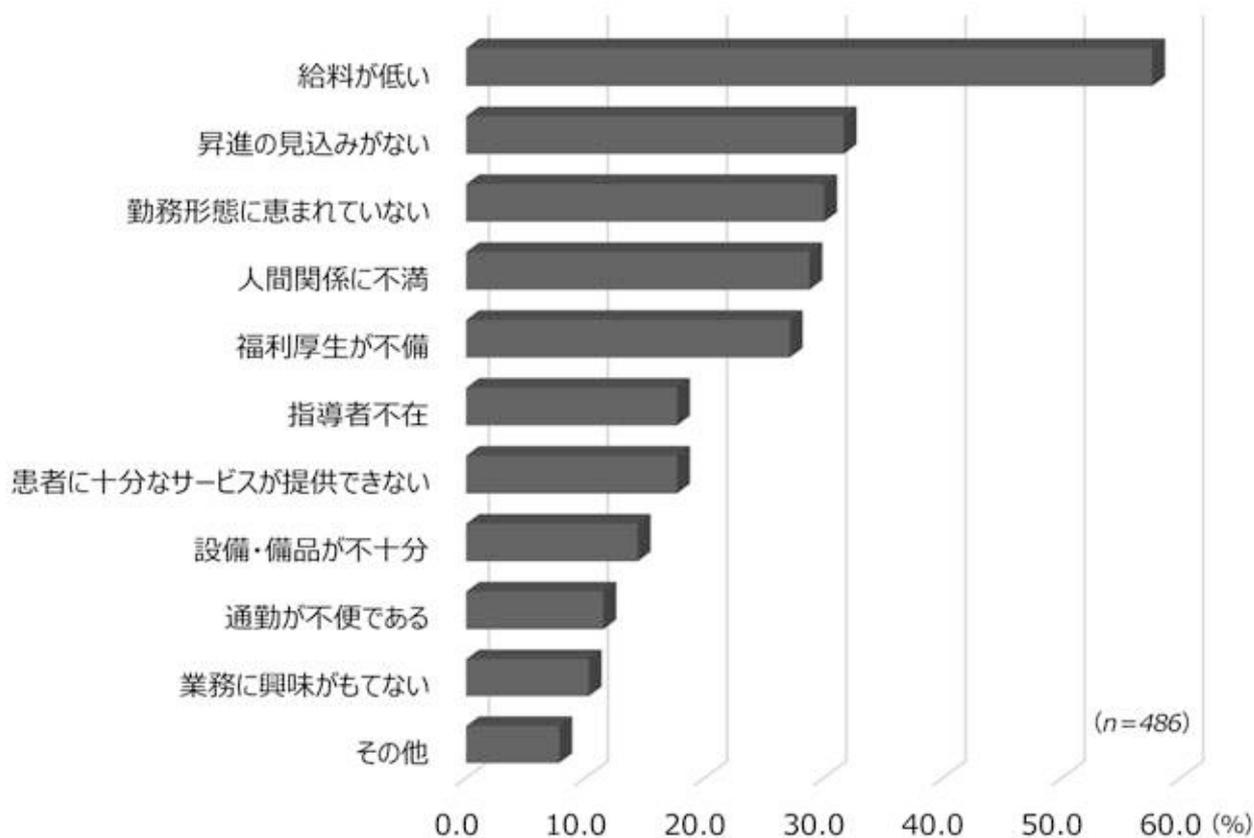
図VI-5 自分の仕事の範囲がはっきりしている

2) 現状に対する満足度

現在の職場での業務に「満足している」と回答したのは、1995年では17.3%であったのが、5年の調査年ごとに増加傾向を示し、2015年では27.3%であった(図VI-6)。一方、現状に対して「不満足である」と回答した理由の上位は、「給料が低い」57.6%、「昇進の見込みがない」31.7%、「勤務形態に恵まれていない」30.0%、「人間関係に不満」28.8%、「福利厚生が不備」27.2%であった(図VI-7)。



図VI-6 現状に対する満足度

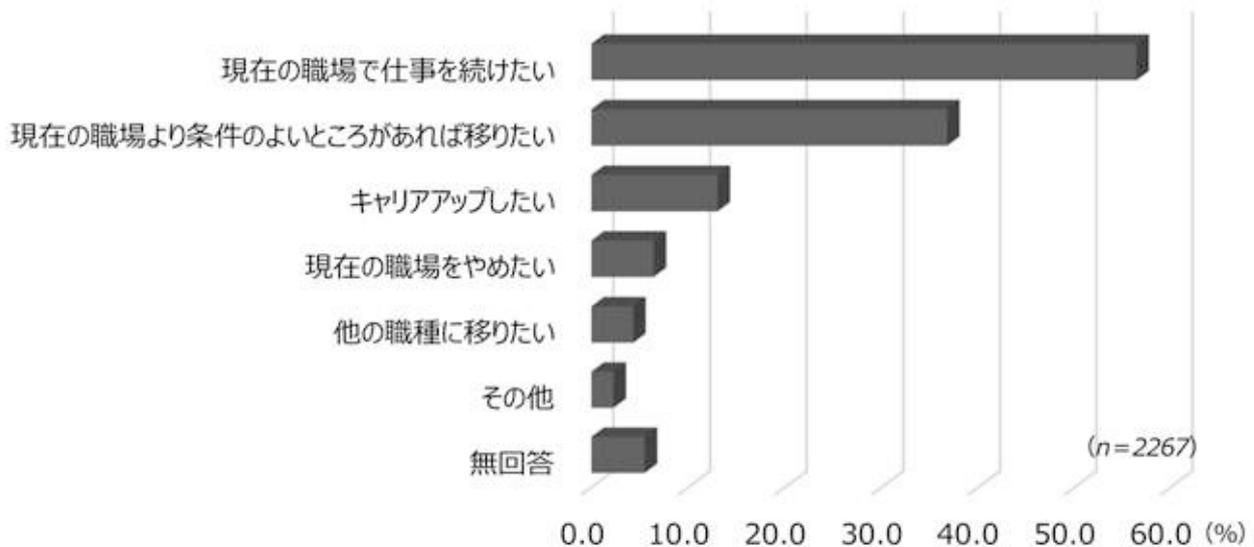


図VI-7 現状に対する不満の理由(複数回答)

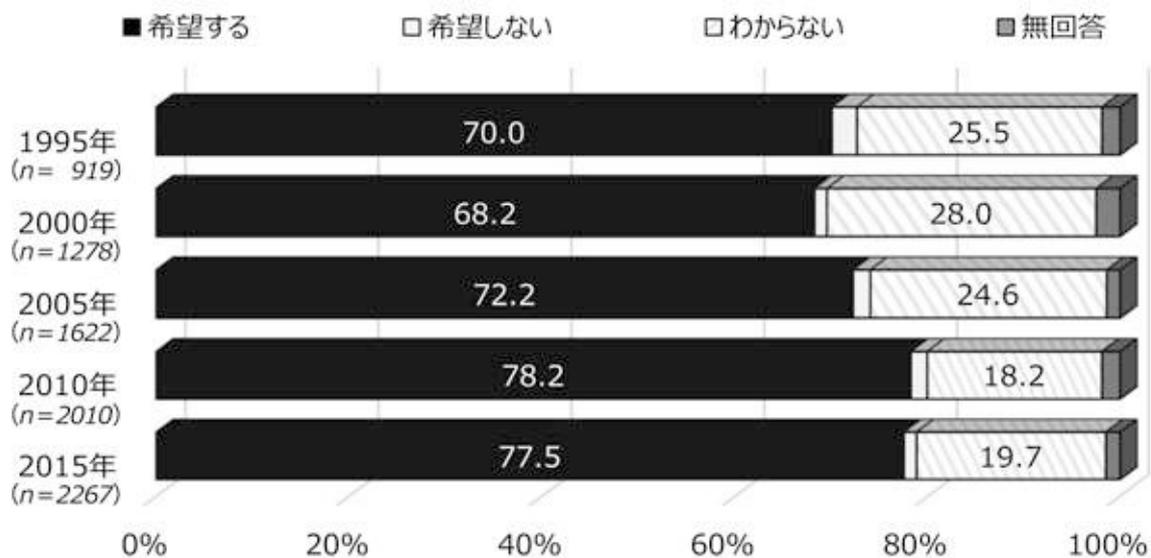
3) 現在の職場の継続及び視能訓練士としての継続

「現在の職場で仕事を続けたいと思いますか」の設問では、「現在の職場で仕事を続けたい」が 56.5%と最も多く、次いで「現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい」36.8%、「キャリアアップしたい」13.1%であった(図VI-8)。

「視能訓練士として働くことを希望しますか」の質問については、「希望する」77.5%、「希望しない」1.3%、「わからない」19.7%であった。「視能訓練士として働くことを希望する」との回答は、1995年の調査からは増加しているが、前回の調査よりもわずかに減少した(図VI-9)。



図VI-8 現在の職場の継続(複数回答)

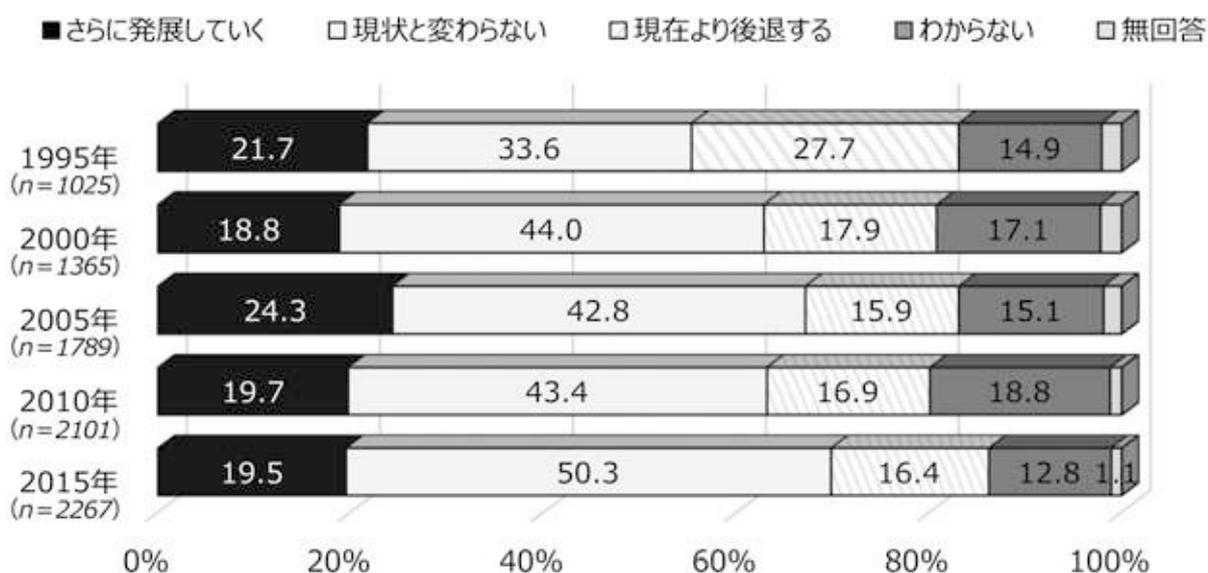


図VI-9 視能訓練士としての継続

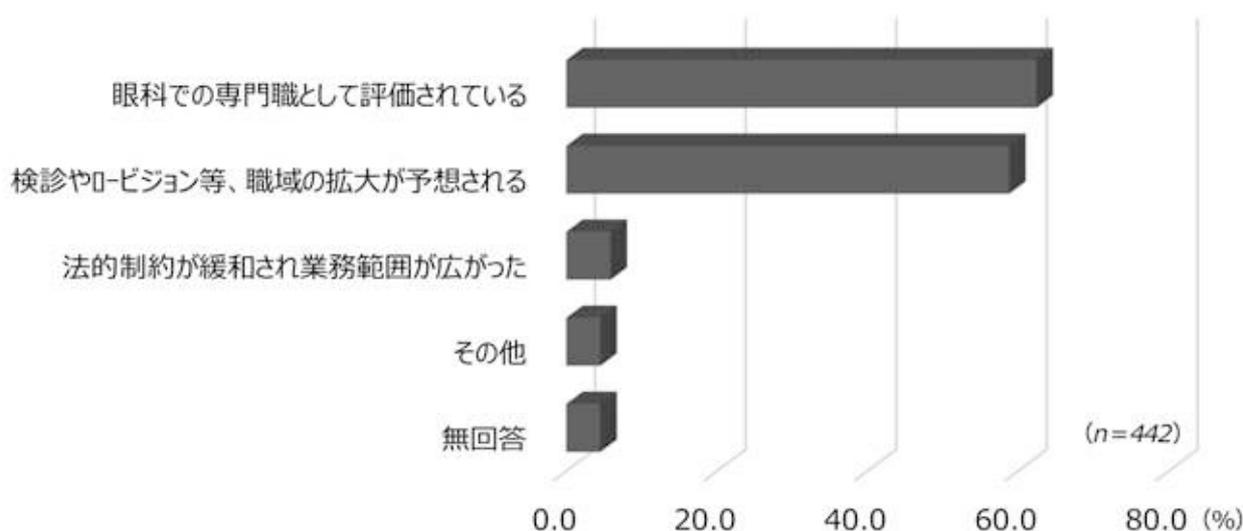
4) 視能訓練士の将来性

視能訓練士の将来性について、「さらに発展していく」は19.5%、「現状と変わらない」は50.3%、「現在より後退する」16.4%であった。経年的にみると「さらに発展していく」はわずかながら減少傾向にある。「現状と変わらない」は2010年より増加した(図VI-10)。

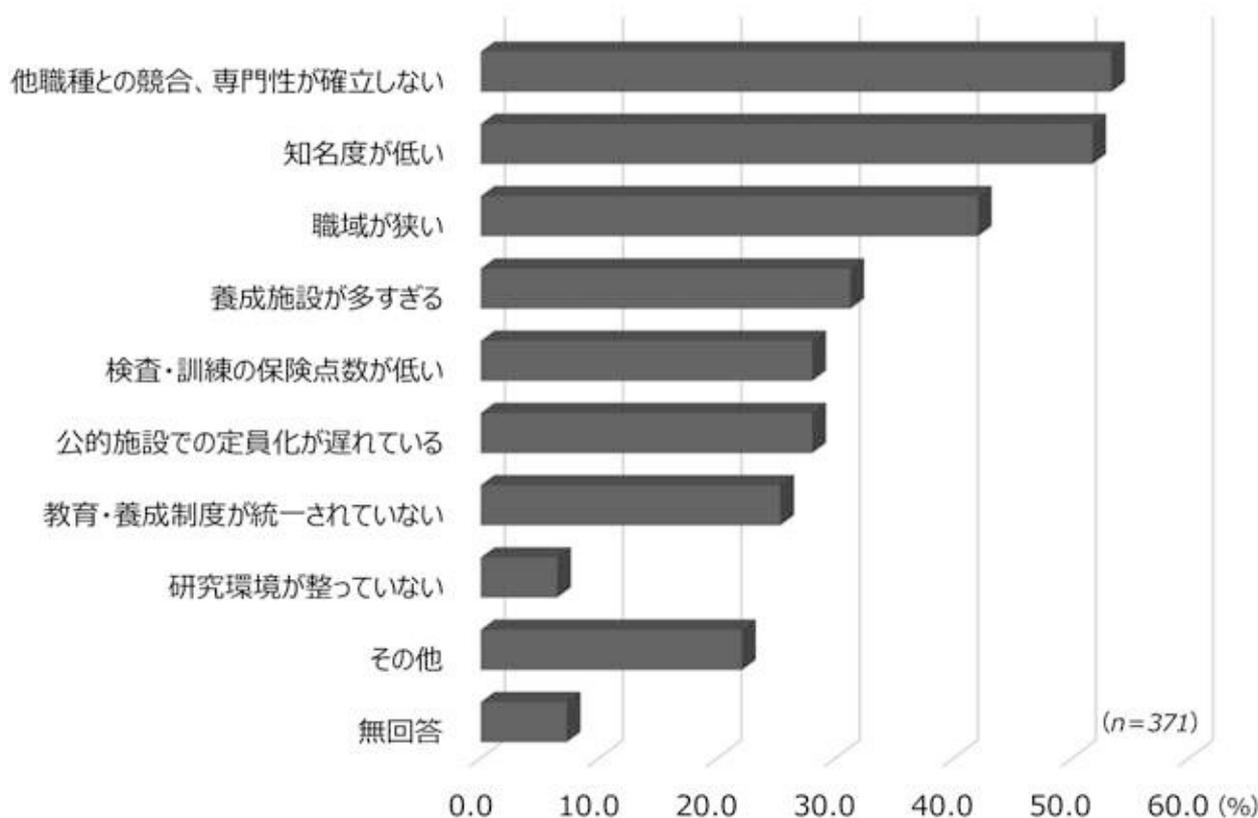
「発展していく」と回答した理由について、「眼科での専門職として評価されている」が62.4%、「検診やロービジョン等、職域の拡大が予想される」が58.8%であった(図VI-11)。一方、「現在より後退していく」と回答した理由については、「看護師など他の職種も同じ業務に従事し専門性が確立しない」53.4%、「知名度が低い」51.8%、「職域が狭い」42.0%、「養成施設が多すぎる」31.3%であった。また、「教育・養成制度が統一されていない」25.3%とあわせると、卒前教育に係る問題点を指摘した回答が56.6%となった(図VI-12)。



図VI-10 視能訓練士の将来性



図VI-11 視能訓練士が「さらに発展していく」理由 (複数回答)



図VI-12 視能訓練士が「現在より後退する」理由（複数回答）

まとめにかえて

本書では、今回の調査結果を報告するとともに1995年から5年ごとに実施している過去4回の調査結果とを比較した。20年間の推移をみると、一般事項では男性の割合が10%程度増加したこと、勤務先区分では公立および準公立医療機関の勤務者が減少する一方で眼科診療所、国立医療機関の勤務者が増加傾向にあることなどが変化した事項として挙げられる。特に国立医療機関の採用形態において「医療技術職としての病院採用」の割合の増加は、視能訓練士の身分の確立の観点からは大きな進歩であると思われる。

業務内容について、前眼部や眼底の画像解析装置を用いた検査、ロービジョン検査・指導、検診・健康診査業務の増加は、視能訓練士の専門職としての役割と職域の拡大の一端を表しているものと思われる。一方で、勤務状況については、ハラスメントに関する問題や人員不足により休みがとりにくいなど、職場環境に関する問題点も多く存在する現状がうかがえた。

卒後教育に関する事項における職場内外での勉強会の増加と参加意欲の高まりは、2006年から開始された生涯教育制度の波及効果と思われる。2005年の調査までに意見として挙がっていた「卒後教育の充実」は「卒後教育への参加を容易にする対策」への要望に変化してきており、視能訓練士の多くが自己研鑽を積み、自らの専門性を高めていこうとする意欲がうかがえる。

今回の調査では、視能訓練士の将来性と「卒前教育の充実」との関連性についての指摘が多くみられた。卒前教育を受けた自身の経験、あるいは臨床実習で学生を指導した経験からの意見も含まれており、参加しやすい生涯（卒後）教育の検討と併せ、今後の課題と思われる。

最後に今回のアンケートにご協力いただきました正会員の皆様に深く感謝申し上げます。

会員のみなさまの声

□業務に関する意見・要望

- ・業務独占についての検討
- ・診療報酬点数の引き上げや視能訓練士の点数加算
- ・眼科検査の機械化による技術・意識の低下
- ・3歳児健診への参加促進（視能訓練士への啓発含む）
- ・ロービジョンケアへのかかわり（視能訓練士への啓発）
- ・視能訓練士の違法業務（診断等）や他業種の違法業務（臨床検査技師の眼鏡処方や弱視訓練）の啓発、指導
- ・業務範囲の拡大を求める
- ・結果の記載方法の統一についての検討

□知名度・待遇等に関する意見・要望

- ・視能訓練士の定員化
- ・視能訓練士の必要性についての各方面への周知
- ・他の医療関連職種に比べて給与水準が低いように思う
- ・産休、育休後の再就労に関する調査の実施
- ・女性の就労／キャリア形成に関する情報
- ・一人職場の視能訓練士をサポートする仕組み
- ・一人職場では休みがとりづらいため、学会等参加が難しい
- ・新人は学会や講習会等に参加するのが難しい（時間的、経費的）
- ・知名度、認知度の向上についての働きかけ
- ・無資格者問題に対する検討と積極的な対応
- ・ハラスメント問題に関する調査の実施

□教育（卒前・卒後）に関する意見・要望

- ・生涯教育プログラムに参加しやすい環境づくりを望む
（分割参加を可とする仕組み、託児所の設置、地方開催、開催場所の選択についての柔軟な対応）
- ・認定視能訓練士の取得についての目的や魅力についての発信、啓発
- ・生涯教育の単位を取りやすくしてほしい
- ・育児休暇後のリカレント教育の仕組みづくりについて
- ・卒前教育、カリキュラムへの積極的な関与
- ・学生／実習生の質の低下、意欲の低下、社会性の低下
- ・マネジメント教育の導入
- ・勉強会や研究会の立ち上げについての助言

□協会運営に関する意見

- ・ホームページの充実（各種登録等のWeb活用の促進、求人情報の充実）
- ・年会費や学会費、各種講習会費の値下げを希望する
- ・正会員であることの恩恵が少ないと思う
- ・入会率の向上のための対策、入会率低下に関する調査実施
- ・通信費等の削減に関する検討
- ・職場でのトラブル、いろいろな問題についての相談窓口の設置を希望する

□その他

- ・アンケートが回答しづらい（特に勤務していない場合）
- ・視能訓練士の実態についてもっと踏み込んだ調査を実施し欲しい（現場の視察など）

資料1 アンケート調査票

- ◎ アンケート項目は問1～問70まであります。回答は直接アンケート用紙にご記入下さい。
◎ 回答は当てはまる答えの番号を○で囲むものと、具体的にご記入いただくものがあります。
「その他()」などの()内および自由記述欄にはできる限り詳しくご記入下さい。

I. 一般的事項についてお伺いします

- Q1. 性別は 1. 男性 2. 女性
- Q2. 年齢は 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代
5. 60歳以上
- Q3. 視能訓練士の免許を取得したのは、何年ですか
昭和・平成()年
- Q4. 視能訓練士としての勤務年数(通算)は、どれ位ですか
(特例の方は視能訓練士としての勤務内容の仕事をはじめてから)
()年()か月
- Q5. 現在、勤務している地域はどちらですか
1. 北海道 2. 東北 3. 関東 4. 甲信越
5. 東京 6. 東海 7. 北陸 8. 近畿
9. 中国 10. 四国 11. 九州 12. 沖縄
- Q6. 教育を受けた視能訓練士養成所はどこですか
()
- Q7. 視能訓練士養成所に入学する前の学歴について、該当するものに○をつけて下さい(海外での学歴も含む)
1. 高等学校 2. 短期大学 3. 4年制大学
4. 大学院(修士) 5. 大学院(博士)
6. 各種専門学校 7. その他()
- Q8. 視能訓練士以外の資格はありますか
1. ある 2. ない
- Q9. Q8で「1. ある」と答えた方に、下記の資格で持っているものを全て選んで下さい(複数回答可)
1. 看護師・保健師 2. 保育士 3. 幼稚園教諭
4. 教員 5. 養護教諭 6. 介護支援専門員
7. その他() (ケアマネージャー等)

II. 勤務体制についてお伺いします

- Q10. 現在の勤務形態はどれですか
1. 正規職員 2. 非常勤職員 3. 契約職員
4. 事業主(経営者) 5. 勤務していない
6. その他()

- Q11. Q10.で2または3と答えた方に、あなたの勤務形態をさらに詳しく教えてください。あなたの勤務形態は、どれにあてはまりますか
1. 週40時間の雇用 2. 週30時間の雇用
3. 週2～3日程度の非常勤 4. 不定期雇用
5. その他
- Q12. Q10.で2または3と答えた方に、あなたの採用形態の理由は何ですか
1. 本当は常勤になりたいがポストがない
2. 家庭の都合で正規職員は困難
3. 扶養家族として勤務したい 4. その他()
- Q13. 現在の主な勤務先での勤続年数は何年ですか
()年
- Q14. 視能訓練士として得た前年度の年間所得(税込み)はどれ位ですか。源泉徴収票などを参考に記入してください。
()万円
- Q15. 給与が時間給の人はその額も記入して下さい
()円/時間
- Q16. 現在、主に勤務している施設はどこですか
1. 国立高度専門医療センター(ナショナルセンター)
2. 独立行政法人国立病院機構 3. 国立大学法人
4. その他国立系病院
5. 公立医療機関(都道府県市町村立の病院及び診療所)
6. 公立大学病院
7. 公立に準ずる病院及び診療所(労災・日本赤十字・済生会・厚生連・社会事業協会・厚生年金・共済組合・社会保険労務士等)
8. 私立大学病院 9. 私立病院(他科もある病院の眼科)
10. 私立眼科病院 11. 眼科診療所(医療法人及び個人)
12. レジックセンター 13. 視能訓練士の養成施設
14. 眼鏡店、コンタクトレンズ関連会社
15. その他()
- Q17. Q16.で1,2,3,4の方に、あなたはどのような身分で採用されていますか
1. 厚生労働技官 2. 厚生労働教官 3. 文部科学技官
4. 文部科学教官 5. 病院採用(医療技術職)
6. 病院採用(事務職) 7. 眼科医局採用
8. 団体採用 9. その他()

Q18. Q16.で1,2,3,4以外の方に、あなたはどのような身分で採用されていますか

1. 病院採用 (医療技術職)
2. 病院採用 (事務職)
3. 眼科医局採用
4. 団体採用
5. 養成施設職員採用
6. 会社採用
7. その他 ()

Q19. 同じ職場に勤務する視能訓練士はあなたを含め何人いますか
正規職員 () 人、非常勤職員 () 人
契約職員 () 人

Q20. 現在、あなたの勤務している施設で、常勤の視能訓練士の人数で足りていますか

1. 足りている
2. 足りていない

Q21. Q20.で「2.足りていない」と答えた方に、その理由は何ですか (複数回答可)

1. 外来患者数が多い
2. 眼科一般検査、訓練などの業務が多い
3. 事務業務が多い
4. その他 ()

Q22. Q20.で「2.足りていない」と答えた方に、視能訓練士を増員することで、収益及びサービスを向上させることができますか

1. できると思う
2. できないと思う

Q23. Q22.で「1.できると思う」と答えた方に、その理由は何ですか (複数回答可)

1. 眼科一般検査、訓練が多くできる
2. 患者の待ち時間が少なくなる
3. その他 ()
4. わからない

Q24. Q22.で「2.できないと思う」と答えた方に、その理由は何ですか (複数回答可)

1. 増員しても人件費がかかる
2. 仕事量が増える
3. その他 ()
4. わからない

Q25. 視能訓練士の増員や常勤化について、病院や医師に相談したことはありますか

1. ある
2. ない

Q26. Q25.で「1.ある」と答えた方に、相談した際の、回答や対応はどうでしたか

1. すぐに回答、対応してくれた
2. すぐではないが回答、対応してくれた
3. 回答、対応してもらえなかった
4. その他

Q27. 1週間に平均何日勤務していますか

例) 月曜と水曜:1日勤務 火曜:半日勤務
→ $1.0+1.0+0.5=2.5$ (日)
平均 () 日

Q28. 1年間に何日、年次有給休暇が与えられていますか

1. () 日
2. わからない

Q29. 1年間に平均何日、年次有給休暇を利用していますか

1. () 日
2. わからない

Q30.視能訓練士となって職場は何回変えましたか

1. 0回
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. それ以上 () 回

Q31. Q30.で「1. 0回」以外に答えた方に、職場を変えた理由は何ですか (複数回答可)

1. 配偶者の転勤
2. 結婚や出産を機に一度退職したため
3. 給料が低い
4. 福利厚生が不備
5. 勤務形態に恵まれていない
6. 通勤が不便である
7. 人間関係に不満
8. 設備・備品が不十分
9. 業務に興味をもてない
10. 指導者不在
11. 昇進の見込みがない
12. 患者に十分なサービスが提供できない
13. その他 ()

Ⅲ. 勤務状況についてお伺いします

Q32. 従事している業務概要について、最もあてはまるものに○印を付けて下さい

1. 視能矯正に関する業務のみを行う
2. 視能矯正に関する業務に重点を置くが眼科一般検査も行う
3. 眼科一般検査及び視能矯正に関する検査すべてを均等にを行う
4. 眼科一般検査に重点を置くが視能矯正に関する業務も行う
5. 眼科一般検査のみを行う

Q33. 従事している業務内容に○印を付けて下さい (複数回答可。この質問は視能訓練士が臨床で実際にしている業務を協会が把握する目的で設けています。業務内容の適法・違法を問う目的ではありませんので、従事している業務全てに○印を付けて下さい。)

i) 眼科一般検査

1. 問診
2. 視力検査
3. 屈折検査 (角膜曲率半径測定を含む)
4. 調節検査
5. 静的量的視野検査
6. 動的量的視野検査
7. 色覚検査
8. 光覚検査
9. 眼圧検査
10. 涙液検査
11. コンタクトレンズ検査・装着指導
12. 超音波検査 (Bモード法)
13. 眼軸長計測検査 (超音波Aモード法、光学式方法)
14. 角膜内皮検査
15. 電気生理検査
16. 写真撮影 (前眼部、眼底写真など)
17. デジタル画像撮影 (OCT、角膜トポグラフィなど)
18. 斜視検査・眼球運動検査
19. 眼鏡合わせ検査
20. 散瞳薬の点眼
21. 治療に関する諸検査

- ii) 視能矯正
 - 22. 斜視視能矯正 23. 弱視視能矯正
- iii) 斜視手術関連業務
 - 24. 手術量定量
 - 25. 手術室間接業務 (眼位検査や術式の記録)
 - 26. 手術室直接業務 (手術器具の手渡し、など)
- iv) 白内障手術関連業務
 - 27. IOL度数計算
 - 28. 手術室間接業務 (術式の記録、IOL保管・管理など)
 - 29. 手術室直接業務 (手術器具の手渡し、術眼への水掛など)
- v) その他
 - 30. ローゼン検査・指導 31. 検診・健康診査業務
 - 32. 受付業務 33. 医療請求事務 34. 実験研究業務
 - 35. レンガ関連業務 36. 洗眼
 - 37. 結膜等のウイルス検査 38. 写真等資料整理
 - 39. 各種委員会業務 (医療安全委員会等)
 - 40. 視能訓練士の教育 (学生実習指導含む)
 - 41. その他 ()

Q34. Q33.の i) で「21.治験に関する諸検査」に○印を付けた方に、眼科一般業務と治験に関する諸検査の優先度についてあてはまるものに○印を付けて下さい

- 1. 眼科一般業務を優先している
- 2. 治験に関する諸検査を優先している
- 3. 眼科一般検査と治験に関する諸検査とを均等にしている

Q35. 今まで業務においてアケシデント、インシデント (ヒヤリハット) はありますか

- 1. アケシデントがある 2. インシデントがある
- 3. アケシデント、インシデント共にある 4. ない

Q36. Q35.で1,2,3.と答えた方に、インシデント、アケシデントそれぞれについて該当する番号を下記から選んで記入して下さい (複数回答可、またインシデントとアケシデントとで重複回答可)。ただし、項目10と15の場合は具体的内容について()内に記載してください

- 1. 患者の取り違え 2. カルテの取り違え
- 3. カルテの運搬に関するミス (別の医師に渡した、カルテを置きっぱなしにした等)
- 4. 点眼する薬剤選択ミス (ストリンPとストリンMの間違え等)
- 5. 点眼する目 (右眼、左眼、両眼) の選択ミス
- 6. 瞳孔間距離の測定・計算に関するミス
- 7. 矯正レンズの+と-の記入ミス
- 8. 眼位の+と-の記入ミス 9.プリズム基底の記入ミス
- 10. その他の記入ミス (具体的内容:)
- 11. 椅子やベドからの転倒 12. 検査機器に顔や目をぶつける
- 13. 機器の消音器に関するミス
- 14. 感染症に罹患している患者の取扱ミス (感染症対策のレベル認識ミス等)
- 15. 上記以外 (具体的内容:)

Q37. 今まで日常の仕事上、他の医療関連職種とのトラブルが起きることがありましたか

- 1. ある 2. ない

Q38. Q37.で「1.ある」と答えた方に、その職種は何ですか (複数回答可)

- 1. 視能訓練士 2. 医師 3. 看護師・准看護師
- 4. 看護助手 5. 他の医療職
- 6. 眼科コメディカル (HOMA) 7. 事務職
- 8. その他 ()

Q39. 今まで業務においてハラスメントをうけたことはありますか

- 1. ある 2. ない

Q40. Q39.で「1.ある」と答えた方に、その種類は何ですか (複数回答可)

- 1. パワーハラスメント 2. セクシャルハラスメント
- 3. アカデミックハラスメント
- 4. マタニティハラスメント 5.その他 ()

IV. 視能訓練士の養成についてお伺いします (特別措置の方もご意見をお聞かせ下さい)

Q41. 教育機関などの機関が適していると思いますか

(複数回答可)

- 1. 高校卒業後の専門学校での教育
- 2. 短期大学での教育 3. 大学での教育
- 4. 大学卒業後の専門学校での教育 5. 大学院での教育

Q42. 教育期間は基礎及び専門を含め何年が必要だと思いますか (高卒後に換算)

- 1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 4年 5. 5年
- 6. 6年 7. その他 ()

Q43. あなたが受けた教育内容についてどう考えていますか

- 1. 十分である 2. やや不足である 3. 不十分である
- 4. わからない

Q44. Q43.で2または3.と答えた方に、今後、充実が必要と思う科目や内容は何ですか (複数回答可)

- 1. 専門科目 2. 専門技術 3. 基礎医学
- 4. 客観的臨床能力試験 (OSCE) などの臨床技能評価
- 5. 数学、統計学 6. 物理学、生物学、化学
- 7. 社会学、社会福祉学 8. 教育学、心理学
- 9. 経済学、法律学 10. 英語など外国語
- 11. 医療倫理 12. わからない 13. その他 ()

- Q45. 現在、視能訓練士の教育に携わっていますか（複数回答可）
1. 養成施設の教員である
 2. 養成施設の非常勤講師である
 3. 臨床・（臨地）・実習病院の指導者である
 4. 携わっていない

- Q46. 臨床（臨地）実習を引き受けたことがありますか
1. ある
 2. ない

- Q47. 臨床（臨地）実習の依頼があった場合、どうされますか
1. 新規・継続ともに引き受ける
 2. 継続のみ引き受け、新規は引き受けられない
 3. 新規・継続ともに引き受けられない

- Q48. Q47.で「3.新規・継続ともに引き受けられない」と答えた方に、最も大きな理由を選んで下さい（複数回答可）
1. 現在の施設状態では不相当である
 2. 現在の診療内容では不相当である
 3. 忙しい
 4. 経験不足である
 5. わずらわしい
 6. 実習受け入れ許容人数を超えている
 7. 院内での理解が得られない
 8. その他（ ）

V. 卒後教育についてお伺いします

- Q49. 現在、業務上の疑問点の解決はどのようにしていますか（複数回答可）
1. 相談する
 2. 書籍・雑誌で調べる
 3. 電子媒体で調べる
 4. 解決法なし
 5. 困っていない
 6. その他（ ）

- Q50. Q49.で「1.相談する」と答えた方に、相談先はどこですか（複数回答可）
1. 同じ施設の視能訓練士
 2. 他の施設の視能訓練士
 3. 医師
 4. 出身校の先生
 5. その他（ ）

- Q51. よく利用される雑誌はどれですか（複数回答可）
1. 日本視能訓練士協会誌
 2. 日本眼科学会誌
 3. あたらしい眼科
 4. 眼科
 5. 臨床眼科
 6. 眼科臨床紀要
 7. 日本弱視斜視学会誌
 8. 日本の眼科
 9. 特になし
 10. 眼科ケア
 11. その他（ ）

- Q52. 職場内での勉強会がありますか
1. 定期的にある
 2. 不定期にある
 3. ない

- Q53. Q52.で1.または2.と答えた方に、職場内勉強会への参加者はどなたですか（複数回答可）
1. 視能訓練士のみ
 2. 視能訓練士と医師
 3. 視能訓練士と医師と他スタッフ
 4. その他（ ）

- Q54. 職場外での主として視能訓練士を中心とした勉強会がありますか
1. 定期的にある
 2. 不定期にある
 3. ない

- Q55. Q54.で1.または2.と答えた方に、その勉強会の名称があれば記入してください
[名称 _____]

- Q56. Q54.で1.または2.と答えた方に、その勉強会の地域はどちらですか（複数回答可）
1. 北海道
 2. 東北
 3. 関東
 4. 甲信越
 5. 東京
 6. 東海
 7. 北陸
 8. 近畿
 9. 中国
 10. 四国
 11. 九州・沖縄
 12. 大学関連病院
 13. 出身校単位

- Q57. Q54.で1.または2.と答えた方に、その勉強会に参加していますか
1. いつも参加している
 2. 時々参加している
 3. 参加していない

- Q58. Q54.で「3.ない」と答えた方に、勉強会があれば参加しますか
1. 参加する
 2. 参加しない
 3. 出来れば参加したい
 4. その他（ ）

- Q59. 卒後教育として希望される項目のすべてに○をつけ、特に希望される項目の1つに◎をつけて下さい。また具体的な内容についても[]内に記入して下さい
1. 講義 [内容 _____]
 2. 技術研修 [内容 _____]
 3. 情報提供 [内容 _____]
 4. その他（ ）
 5. 特になし

VI. 将来展望についてお伺いします

- Q60. 現在の職場の中で次のi～vについて、あなたの考えに最も近いのはどれですか。

i) 仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる

1. そうである
2. どちらかといえばそうである
3. どちらともいえない

4. どちらかといえばそうではない

5. そうではない

ii) 自分の責任で行える仕事が多い

1. そうである
2. どちらかといえばそうである
3. どちらともいえない

4. どちらかといえばそうではない

5. そうではない

iii) 単純でつまらない仕事は少ない

1. そうである
2. どちらかといえばそうである
3. どちらともいえない

4. どちらかといえばそうではない

5. そうではない

- iv) 自分たちの仕事は尊重されている
1. そうである
 2. どちらかといえばそうである
 3. どちらともいえない
 4. どちらかといえばそうではない
 5. そうではない
- v) 自分の仕事の範囲がはっきりしている
1. そうである
 2. どちらかといえばそうである
 3. どちらともいえない
 4. どちらかといえばそうではない
 5. そうではない

Q61. 現在の職場での業務に満足されていますか

1. 満足している
2. 普通
3. 不満足である

Q62. Q61.で「3.不満足である」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

1. 給料が低い
2. 福利厚生が不備
3. 勤務形態に恵まれていない
4. 通勤が不便である
5. 人間関係に不満
6. 設備・備品が不十分
7. 業務に興味をもてない
8. 指導者不在
9. 昇進の見込みがない
10. 患者に十分なサービスが提供できない
11. その他（ ）

Q63. 現在の職場で仕事を続けたいと思いますか（複数回答可）

1. 現在の職場で仕事を続けたい
2. 現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい
3. 現在の職場をやめたい
4. キャリアアップしたい
5. 他の職種に移りたい
6. その他（ ）

Q64. 視能訓練士の将来性についてどのように考えていますか

1. さらに発展していく
2. 現状と変わらない
3. 現在より後退する
4. わからない

Q65. Q64.で「1.さらに発展していく」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

1. 眼科での専門職として評価されている
2. 検診やロゼジョン等、職域の拡大が予想される
3. 法的制約が緩和され業務範囲が広がった
4. その他（ ）

Q66. Q64.で「3.現在より後退する」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

1. 看護師など他の職種も同じ業務に従事し専門性が確立しない
2. 検査・訓練の保険点数が低い
3. 教育・養成制度が統一されていない
4. 養成施設が多すぎる
5. 研究環境が整っていない
6. 知名度が低い
7. 公的施設での定員化が遅れている
8. 職域が狭い
9. その他（ ）

Q67. 将来も視能訓練士として働くことを希望しますか

1. 希望する
2. 希望しない
3. わからない

Q68. Q67.で「2.希望しない」「3.わからない」と答えた方に、その理由は何ですか（自由記述）

VII. その他

Q69. 今後のアンケート調査の回答について意向をお伺いします

1. 従来通り郵送にする
2. インターネットを利用する
3. どちらでもよい

Q70. 協会への希望、その他ご意見などがあればお潤かせ下さい（自由記述）

ご協力ありがとうございました。

資料2 回答の単純集計

Q1. 性別は

男性	女性	無回答	合計
298	1966	3	2267
13.1	86.7	0.2	100.0

Q2. 年齢は

20代	30代	40代	50代	60歳以上	無回答	合計
463	910	572	264	54	4	2263
20.4	40.1	25.2	11.6	2.4	0.3	100.0

Q3. 視能訓練士の免許を取得したのは、何年ですか

～昭和44年	昭和45～49年	昭和50～54年	昭和55～59年	昭和60年～平成1年	平成2～6年	平成7～11年	平成12～16年	平成17～21年	平成22～26年	無回答	合計
0	21	30	110	163	165	336	401	501	427	83	2267
0.0	0.9	1.3	4.9	7.2	8.6	14.8	17.7	22.1	18.8	3.7	100.0

Q4. 視能訓練士としての勤務年数（通算）は、どれ位ですか

5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満	25年以上30年未満	30年以上35年未満	35年以上40年未満	40年以上	無回答	合計
369	548	459	345	199	162	100	34	14	37	2267
16.3	24.2	20.2	15.2	8.8	7.1	4.4	1.5	0.6	1.6	100.0

Q5. 現在、勤務している地域はどちらですか

北海道	東北	関東甲信越	東京	東海北陸	近畿	中国四国	九州沖縄	無回答	合計
88	159	759	130	271	419	189	220	32	2267
3.9	7.0	33.5	5.7	12.0	18.5	8.3	9.7	1.4	100.0

Q6. 教育を受けた視能訓練士養成所はどこですか

特別選過措置(特例)	北海道ハイテクノロジー専門学校	吉田学園医療歯科専門学校	東北文化学園専門学校	東北文化学園大学	仙台医療専門学校	専門学校日本科学大校	北里大学	国際医療福祉大学	浦和専門学校	新理医療技術専門学校
11	83	10	83	5	1	86	105	67	22	259
0.5	3.7	0.4	3.7	0.2	0.04	3.8	4.6	3.0	1.0	11.4
東京医療専門学校	帝京大学	国立小児病院附属視能訓練学院	首都医校	平成医療専門学校	東海医療科学専門学校	日本医療福祉専門学校	愛知淑徳大学	名古屋医専	洛和会京都厚生学校	国立大岡医療センター附属視能訓練学院
95	64	239	0	74	86	8	54	2	8	258
4.2	2.8	10.5	0.0	3.3	3.8	0.4	2.4	0.1	0.4	11.4
大岡医療福祉専門学校	大岡医専	神戸総合医療専門学校	川崎医療福祉大学	松江総合医療専門学校	福岡国際医療福祉学院	大分視能訓練士専門学校	西日本教育医療専門学校	九州保健福祉大学	無回答	合計
106	49	73	125	17	41	148	2	66	20	2267
4.7	2.2	3.2	5.5	0.7	1.8	6.5	0.1	2.9	0.9	100.0

※旧名称は省略

Q7. 視能訓練士養成所に入学する前の学歴について、該当するものに○をつけて下さい

高等学校	短期大学	4年制大学	大学院(修士)	大学院(博士)	各種専門学校	その他	無回答	合計
1345	322	513	13	3	56	8	7	2267
59.3	14.2	22.6	0.6	0.1	2.5	0.4	0.3	100.0

Q8. 視能訓練士以外の資格はありますか

1. ある	2. なし	無回答	合計
476	1745	46	2267
21.0	77.0	2.0	100.0

Q9. Q8.で「1. ある」と答えた方に、下記の資格で持っているものを全て選んで下さい（複数回答可）

看護師 保健師	保育士	幼稚園 教諭	教員	養護教諭	介護支援専門員 (ケアマネージャー等)	その他	合計
42	55	64	178	36	56	148	579
7.3	9.5	11.1	30.7	6.2	9.7	25.6	100.0

Q10. 現在の勤務形態はどれですか

1. 正規職員	2. 非常勤職員	3. 契約職員	4. 事業主	5. 勤務していない	その他	無回答	合計
1696	369	80	10	48	10	54	2267
74.8	16.3	3.5	0.4	2.1	0.4	2.4	100.0

Q11. Q10.で2または3と答えた方に、あなたの勤務形態をさらに詳しく教えてください。

週40時間の雇用	週30時間の雇用	週2~3日程度の 非常勤	不定期雇用	その他	無回答	合計
97	99	153	18	67	15	449
21.6	22.0	34.1	4.0	14.9	3.3	100.0

Q12. Q10.で2または3と答えた方に、あなたの採用形態の理由は何ですか

本当は常勤になりたいがポストがない	家庭の都合で正規職員は困難	扶養家族として勤務したい	その他	無回答	合計
98	186	59	65	41	449
21.8	41.4	13.1	14.5	9.1	100.0

Q13. 現在の主な勤務先での勤続年数は何年ですか

1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上 35年未満	35年以上 40年未満	40年以上	無回答	合計
98	355	329	629	341	204	121	80	34	15	2	59	2267
4.3	15.7	14.5	27.7	15.0	9.0	5.3	3.5	1.5	0.7	0.1	2.6	100.0

Q14. 視能訓練士として得た前年度の年間所得（税込み）はどれ位ですか。

100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	700万円以上	回答なし	合計
84	156	328	592	439	215	119	68	266	2267
3.7	6.9	14.5	26.1	19.4	9.5	5.2	3.0	11.7	100.0

Q15. 給与が半時間給の人はその額も記入して下さい

1000円未満	1000~2000円未満	2000~3000円未満	3000~4000円未満	4000~5000円未満	5000円以上	合計
3	224	80	24	7	3	341
0.9	65.7	23.5	7.0	2.1	0.9	100.0

Q16. 現在、主に勤務している施設はどこですか

1. 国立高度専門医療センター	2. 独立行政法人 国立病院機構	3. 国立大学法人	4. その他 国立系病院	5. 公立医療機関	6. 公立大学病院	7. 公立に準ずる 病院・診療所	8. 私立大学病院	9. 私立病院
6	57	68	8	280	16	292	167	324
0.3	2.5	3.0	0.4	12.4	0.7	12.9	7.4	14.3
10. 私立眼科 病院	11. 眼科診療所	12. レンシック センター	13. 視能訓練 士の養成施設	14. 眼鏡店 コンタクト レンズ製造会社	15. その他	無回答	合計	
61	799	2	72	4	22	89	2267	
2.7	35.2	0.1	3.3	0.2	1.0	3.9	100.0	

Q17. Q16.で1.2.3.4の方に、あなたはどのような身分で採用されていますか

厚生労働 技官	厚生労働 教官	文部科学 技官	文部科学 教官	病院採用 医療技術職	病院採用 事務職	眼科医局 採用	団体採用	その他	無回答	合計
2	0	4	0	120	1	5	1	3	3	139
1.4	0.0	2.9	0.0	86.3	0.7	3.6	0.7	2.2	2.2	100.0

Q18. Q16.で1.2.3.4.以外の方に、あなたはどのような身分で採用されていますか

病院採用 医務技術職	病院採用 事務職	眼科医局 採用	団体採用	養成施設 職員採用	会社採用	その他	無回答	合計
1748	14	25	34	70	56	51	130	2128
82.1	0.7	21.2	1.6	3.3	2.6	2.4	6.1	100.0

Q19. 同じ職場に勤務する視能訓練士はあなたを含め何人いますか

	0名	1名	2名	3名	4名	5名以上 10名未満	10名以上 15名未満	15名以上	無回答	合計
正規職員	205	498	421	349	195	364	92	61	82	2267
	9.0	22.0	18.6	15.4	8.6	16.1	4.1	2.7	3.6	100.0
非常勤職員	1331	461	161	84	44	68	6	0	82	2267
	60.0	20.3	7.1	3.7	1.9	3.0	0.3	0.0	3.6	100.0
契約職員	1991	115	43	13	6	16	1	0	82	2267
	87.8	5.1	1.9	0.6	0.3	0.7	0.04	0.0	3.6	100.0

Q20. 現在、あなたの勤務している施設で、
常勤の視能訓練士の人数で足りていますか

1. 足りて いる	2. 足りて いない	無回答	合計
1398	758	111	2267
61.7	33.4	4.9	100.0

Q21. Q20.で「2.足りていない」と答えた方に、その理由は何ですか
(複数回答可)

外来患者数が 多い	眼科一般検査 訓 練等の業務が多い	事務業務が 多い	その他	回答者数
471	504	153	130	758
62.1	66.5	20.2	17.2	-

Q22. Q20.で「2.足りていない」と答えた方に、
視能訓練士を増員することで、収益及びサー
ビスを向上させることができると思いますか

1. できると 思う	2. できない と思う	無回答	合計
649	100	9	758
85.6	13.2	1.2	100.0

Q23. Q22.で「1.できると思う」と答えた方に、その理由は何ですか
(複数回答可)

眼科一般検査 訓練が多くできる	患者の待ち時間が 少なくなる	その他	わからない	回答者数
429	490	139	7	649
66.1	75.5	21.4	1.1	-

Q24. Q22.で「2.できないと思う」と答えた方に、その理由は何ですか
(複数回答可)

増員しても人件 費がかかる	仕事量が 増える	その他	わからない	回答者数
60	36	40	9	97
61.9	37.1	41.2	9.3	-

Q25. 視能訓練士の増員や常勤化について、
病院や医師に相談したことはありますか

1. ある	2. ない	無回答	合計
953	1218	96	2267
42.0	53.7	4.2	100.0

Q26. Q25.で「1.ある」と答えた方に、相談した際の、回答や対応はどうでしたか

すぐに回答、対応 してくれた	すぐではないが 回答、対応してくれた	回答、対応して もらえなかった	その他	無回答	合計
270	47.8	116	78	11	953
28.3	50.2	12.2	8.2	1.2	100.0

Q27. 1週間に平均何日勤務していますか

0.5日	1日	1.5日	2日	2.5日	3日	3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日	6.5日	7日	無回答	合計
6	28	50	42	30	64	16	82	134	1280	376	74	16	4	65	2267
0.3	1.2	2.2	1.9	1.3	2.8	0.7	3.6	5.9	56.5	16.6	3.3	0.7	0.2	2.9	100.0

Q28. 1年間に何日、年次有給休暇が与えられていますか

0日	1~5日	5~9日	10~19日	20~29日
120	38	64	446	806
5.3	1.7	2.8	19.7	35.6
30~39日	40日以上	不明	無回答	合計
24	202	456	111	2267
1.1	8.9	20.1	4.9	100.0

Q29. 1年間に平均何日、年次有給休暇を利用していますか

0日	1~5日	5~9日	10~19日	20~29日
186	476	182	688	180
8.2	21.0	8.0	30.3	7.9
30~39日	40日以上	不明	無回答	合計
6	2	440	107	2267
0.3	0.1	19.4	4.7	100.0

Q30. 視能訓練士となって職場は何回変えましたか

1. 0回	2. 1回	3. 2回	4. 3回	5. 4回以上	無回答	合計
1055	612	237	193	129	41	2267
46.5	27.0	10.5	8.5	5.7	1.8	100.0

Q31. Q30.で「1. 0回」以外に答えた方に、職場を変えた理由は何ですか（複数回答可）

配偶者の転勤	結婚や出産を機に一度退職したため	給料が低い	福利厚生が不備	勤務形態に恵まれていない	通勤が不便である	人間関係に不満	設備・備品が不十分	業務に興味がない
100	342	106	51	179	130	206	25	56
8.5	29.2	9.1	4.4	15.3	11.1	17.6	2.1	4.8
指導者不在	昇進の見込みがない	患者に十分なサービスが提供できない	その他	回答者数				
70	70	41	276	1171				
6.0	6.0	3.5	23.6	-				

Q32. 従事している業務概要について、最もあてはまるものに○印を付けて下さい

視能矯正に関する業務のみを行う	視能矯正に関する業務に重点を置くが眼科一般検査も行う	眼科一般検査及び視能矯正に関する検査すべてを均等にこなす	眼科一般検査に重点を置くが視能矯正に関する業務も行う	眼科一般検査のみを行う	無回答	合計
6	102	760	1140	176	83	2267
0.3	4.5	33.5	50.3	7.8	3.7	100.0

Q33. 従事している業務内容に○印を付けて下さい（複数回答可）

1. 問診	2. 視力検査	3. 屈折検査	4. 調節検査	5. 静的量的視野検査	6. 動的量的視野検査	7. 色覚検査	8. 光覚検査	9. 眼圧検査	10. 涙液検査	11. コンタクトレンズ
1601	2170	2162	1687	2102	2032	2084	651	2100	1231	1313
72.3	98.0	97.6	76.2	94.9	91.7	94.1	29.4	94.8	55.6	59.3
12. 超音波検査Bモード法	13. 眼軸長計測検査	14. 角膜内皮検査	15. 電気生理検査	16. 写真撮影	17. デジタル画像撮影	18. 斜視検査 眼球運動検査	19. 眼鏡合 わせ検査	20. 散瞳薬 の点眼	21. 治療に 関する諸検査	22. 斜視 視能矯正
542	1617	1915	1373	1813	1936	2101	2082	2028	494	1425
24.5	73.0	86.5	62.0	87.4	87.4	94.9	94.0	91.6	22.3	64.3
23. 弱視 視能矯正	24. 手術量 定量	25. 手術室職 業務（眼科検査や 術式記録）	26. 手術室職 業務（手術器具の 手渡し）	27. IOL度 計算	28. 手術室職 業務（術式記 録、IOL管理）	29. 手術室職 業務（手術器具の 手渡し、術後の 水掛）	30. ロビジョン 検査・指導	31. 検診・健 康診査業務	32. 受付業務	33. 医療請 求事務
1751	414	153	34	1175	379	123	787	1103	646	102
79.1	18.7	6.9	1.5	53.0	17.1	5.6	35.5	49.8	29.2	4.6
34. 実験 研究業務	35. レーシ ク関連業務	36. 洗眼	37. 結膜等の ウイルス検査	38. 写真等 資料整理	39. 各種委 員会業務	40. 視能訓 練士の教育	41. その他	回答者数		
117	78	607	131	545	383	917	100	2215		
5.3	3.5	27.4	5.9	24.6	17.3	41.4	4.5	-		

Q34. Q33.の i) で「21. 治療に関する諸検査」に○印を付けた方に、眼科一般業務と治療に関する諸検査の優先度についてあてはまるものに○印を付けて下さい

眼科一般業務を優先している	治療に関する諸検査を優先している	眼科一般検査と治療に関する諸検査とを均等にこなしている	合計
268	68	206	542
49.4	12.5	38.0	100.0

Q35. 今まで業務においてアクシデント、インシデント（ヒヤリ・ハット）はありますか

1. アクシデントがある	2. インシデントがある	3. アクシデント インシデント共にある	4. ない	無回答	合計
120	880	878	373	16	2267
5.3	38.8	38.7	16.5	0.7	100.0

Q36. Q35.で1.2.3.と答えた方に、インシデント、アクシデントそれぞれについて該当する番号を下記から選んで記入して下さい

患者の取り 違い	カルテの取り 違い	カルテの選搬 に関するミス	点眼する薬剤 選択ミス	点眼する眼の 選択ミス	瞳孔距離の 測定・計算に 関するミス	矯正レンズの +と-の記入ミ ス	眼位の+と-の 記入ミス	プリズム基底 の記入ミス
890 47.4	556 29.6	468 24.9	680 36.2	836 44.5	120 6.4	618 32.9	126 6.7	174 9.3
その他の記入 ミス	椅子やベッド からの転倒	検査機器に顔 や目をぶつけ る	機器の消毒に 関するミス	感染症に罹患 している患者 の取扱ミス	上記以外 (その他)	回答者数		
160 8.5	520 27.7	356 19.0	38 2.0	98 5.2	76 4.0	1878 -		

Q37. 今まで日常の仕事上、他の
医療関連職種とのトラブルが
起きることがありましたか

1. ある	2. ない	無回答	合計
622 27.4	1575 69.5	70 3.1	2267 100.0

Q38. Q37.で「1.ある」と答えた方に、その職種は何ですか(複数回答可)

視能訓練士	医師	看護師・准 看護師	看護助手	他の医療職	眼科コ・メ ディカル	事務職	その他	回答者数
158 25.4	186 29.9	412 66.2	34 5.5	38 6.1	116 18.6	142 22.8	20 3.2	622 -

Q39. 今まで業務においてハラスメントを
うけたことはありますか

1. ある	2. ない	無回答	合計
384 16.9	1841 81.2	42 1.9	2267 100.0

Q40. Q39.で「1.ある」と答えた方に、その種類は何ですか(複数回答可)

パワー ハラスメント	セクシャル ハラスメント	アカデミック ハラスメント	マタニティ ハラスメント	その他	回答者数
296 77.1	47 12.2	19 4.9	47 12.2	19 4.9	384 -

Q41. 教育機関はどの機関が適していると思いますか(複数回答可)

高校卒業後の専 門学校での教育	短期大学での 教育	大学での教育	学卒業後の専門 学校での教育	大学院での教育	無回答	回答者数
1355 59.8	508 22.4	1467 64.7	650 28.7	164 7.2	20 0.9	2267 -

Q42. 教育期間は基礎及び専門を含め何年が必要と思いますか
(高卒後に換算)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他	無回答	合計
24 1.1	220 9.7	1168 51.5	795 35.1	16 0.7	14 0.6	6 0.3	24 1.1	2267 100.0

Q43. あなたが受けた教育内容について
どう考えていますか

1. 十分 である	2. やや 不足	3. 不 十分である	4. わ からない	無回答	合計
776 34.2	1051 46.4	276 12.2	140 6.2	24 1.1	2267 100.0

Q44. Q43.で2.または3.と答えた方に、今後、充実が必要と思う科目や内容はどれですか(複数回答可)

専門科目	専門技術	基礎医学	客観的臨床能力試験 (OSCE) などの 臨床技能評価	数学、統計学	物理学、生物学、 化学	社会学、社会福祉学
642 48.4	1067 80.4	564 42.5	307 23.1	193 14.5	48 3.6	72 5.4
教育学、心理学	経済学、法律学	英語など外国語	医療倫理	わからない	その他	回答者数
142 10.7	40 3.0	234 17.6	200 15.1	30 2.3	93 7.0	1327 -

Q45. 現在、視能訓練士の教育に携わっていますか(複数回答可)

養成施設の 教員である	養成施設の 常勤講師である	臨床・(臨地)・実習 病院の指導者である	携わっていない	無回答	合計
72 3.2	14 0.6	631 27.8	1531 67.5	19 0.8	2267 100.0

Q46. 臨床（臨地）実習を引き受けた
ことがありますか

ある	ない	無回答	合計
1348	891	28	2267
59.5	39.3	1.2	100.0

Q47. 臨床（臨地）実習の依頼があった場合、どうされますか

1. 新規・継続ともに引き受ける	2. 継続のみ引き受け、新規は引き受けられない	3. 新規・継続ともに引き受けられない	無回答	合計
617	326	1152	172	2267
27.2	14.4	50.8	7.6	100.0

Q48. Q47.で「3.新規・継続ともに引き受けられない」と答えた方に、最も大きな理由を選んで下さい（複数回答可）

現在の施設状態では不適当である	現在の診療内容では不適当である	忙しい	経験不足である	わずらわしい	実習受け入れ許容人数を超えている	院内での理解が得られない	その他	合計
576	324	466	304	40	36	112	178	1152
50.0	28.1	40.5	26.4	3.5	3.1	9.7	9.7	-

Q49. 現在、業務上の疑問点の解決はどのように
していますか（複数回答可）

1. 相談する	2. 書籍誌で調べる	3. 電子媒体で調べる	4. 解説法なし	5. 困っていない	6. その他	回答者数
2050	1501	926	14	24	6	2267
90.4	66.2	40.8	0.6	1.1	0.3	-

Q50. Q49.で「1.相談する」と答えた方に、
相談先はどこですか（複数回答可）

同じ施設の視能訓練士	他の施設の視能訓練士	医師	出身校の先生	その他	回答者数
1450	1290	1252	106	20	2050
70.7	62.9	61.1	5.2	1.0	-

Q51. よく利用される雑誌はどれですか（複数回答可）

日本視能訓練士協会誌	日本眼科学会誌	あたらしい眼科	眼科	臨床眼科	眼科臨床紀要	日本視光学会誌	日本の眼科	特になし	眼科ケア	その他	回答者数
1157	235	758	140	430	203	387	134	240	1080	40	1501
77.1	15.7	50.5	9.3	28.6	13.5	25.8	8.9	160	72.0	2.7	-

Q53. Q52.で1.または2.と答えた方に、職場内勉強会への参加者は
どなたですか（複数回答可）

Q52. 職場内での勉強会がありますか

1. 定期的にある	2. 不定期にある	3. ない	無回答	合計
602	768	840	57	2267
26.6	33.9	37.1	2.5	100.0

視能訓練士のみ	視能訓練士と医師	視能訓練士と医師と他スタッフ	その他	合計
320	362	848	66	1370
23.4	26.4	61.9	4.8	100.0

54. 職場外での主として視能訓練士を中心とした勉強会がありますか

1. 定期的にある	2. 不定期にある	3. ない	無回答	合計
811	464	942	50	2267
35.8	20.5	41.6	2.2	100.0

Q56. Q54.で1.または2.と答えた方に、その勉強会の地域はどちらですか（複数回答可）

北海道	東北	関東	甲信越	東京	東海	北陸	近畿	中国
49	88	149	70	39	99	47	209	98
5.0	8.9	15.1	7.1	3.9	10.0	4.8	21.2	9.9
四国	九州	沖縄	大学関連病院	出身校単位	回答者数			
34	126	19	12	6	988			
3.4	12.8	1.9	1.2	0.6	-			

Q57. Q54.で1.または2.と答えた方に、
その勉強会に参加していますか

いつも参加している	時々参加している	参加していない	無回答	合計
400	701	126	48	1275
31.4	55.0	9.9	3.8	100.0

Q58. Q54.で「3.ない」と答えた方に、勉強会があれば参加しますか

参加する	参加しない	出来れば参加したい	その他	無回答	合計
184	102	600	36	20	942
19.5	10.8	63.7	3.8	2.1	100.0

Q59. 卒後教育として希望される項目のすべてに○をつけ、特に希望される項目の1つに◎をつけて下さい。

講義	技術研修	情報提供	その他	特になし	回答者数
815 45.5	1114 62.2	866 48.4	49 2.7	309 17.3	1790 -

Q60. 現在の職場の中で次のi～vについて、あなたの考えに最も近いのはどれですか。

	そうである	どちらかといえば そうである	どちらとも いえない	どちらかといえば そうではない	そうではない	無回答	合計
i) 仕事の中に自分の創意や 工夫を活かすことができる	434 19.1	1092 48.2	480 21.2	128 5.6	66 2.9	67 3.0	2267 100.0
ii) 自分の責任で行える 仕事が多い	710 31.3	1054 46.5	320 14.1	76 3.4	42 1.9	65 2.9	2267 100.0
iii) 単純でつまらない仕事は 少ない	508 22.4	856 37.8	618 27.3	120 5.3	98 4.3	67 3.0	2267 100.0
iv) 自分たちの仕事は尊重 されている	618 27.3	1014 44.7	372 16.4	122 5.4	74 3.3	67 3.0	2267 100.0
v) 自分の仕事の範囲が はっきりしている	596 26.3	928 40.9	374 16.5	164 7.2	142 6.3	63 2.8	2267 100.0

Q61. 現在の職場での業務に満足されていますか

1. 満足している	2. 普通	3. 不満足である	無回答	合計
620 27.3	1074 47.4	486 21.4	87 3.8	2267 100.0

Q62. Q61.で「3.不満足である」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

給料が低い	福利厚生が不備	勤務形態に 恵まれていない	通勤が不便である	人間関係に不満	設備・備品が不十分	業務に興味が もてない
280 57.6	132 27.2	146 30.0	56 11.5	140 28.8	70 14.4	50 10.3
指導者不在	昇進の見込みがない	患者に十分なサービ スが提供できない	その他	回答者数		
86 17.7	154 31.7	86 17.7	38 7.8	486 -		

Q63. 現在の職場で仕事を続けたいと思いますか（複数回答可）

現在の職場で仕事を 続けたい	現在の職場より 条件のよいところが あれば移りたい	現在の職場を やめたい	キャリアアップ したい	他の職種に移りたい	その他	無回答	回答者数
1280 56.5	834 36.8	146 6.4	296 13.1	98 4.3	52 2.3	125 5.5	2267 -

Q64. 視能訓練士の将来性についてどのように考えていますか

1. さらに発展していく	2. 現状と変わらない	3. 現在より後退する	4. わからない	無回答	合計
442 19.5	1140 50.3	371 16.4	290 12.8	24 1.1	2267 100.0

Q65. Q64.で「1.さらに発展していく」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

眼科での専門職とし て評価されている	検診やロービジョン 等、職域の拡大が 予想される	法的制限が緩和され 業務範囲が広がった	その他	無回答	合計
276 62.4	260 58.8	26 5.9	20 4.5	20 4.5	442 -

Q66. Q64.で「3.現在より後退する」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

看護師など他の職種も同じ業務に従事し専門性が確立しない	検査・訓練の保険点数が低い	教育・養成制度が統一されていない	養成施設が多すぎる	研究環境が整っていない	知名度が低い	公的施設での定員化が遅れている
198 53.4	104 28.0	94 25.3	116 31.3	24 6.5	192 51.8	104 28.0
職域が狭い	その他	合計				
156 42.0	82 22.1	371 -				

Q67. 将来も視能訓練士として働くことを希望しますか

希望する	希望しない	わからない	無回答	合計
1756 77.5	30 1.3	447 19.7	34 1.5	2267 100.0

Q69. 今後のアンケート調査の回答について意向をお伺いします

従来通り郵送にする	インターネットを利用する	どちらでもよい	無回答	合計
888 39.2	392 17.3	955 42.1	32 1.4	2267 100.0

視能訓練士実態調査報告書 2015年

発行所	公益社団法人 日本視能訓練士協会
代表者	白井千恵
編集 事務局	内川義和(白書委員会) 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-8-5 新神田ビル 2F TEL 03-5209-5251
印刷所	株式会社 リューブン
発行日	平成28年3月25日